

## 12. 平成7年度米の収穫後処理技術コース反省会とりまとめ

### (1) 合意事項

#### 1) 研修前後の個別面接の実施

研修員に本コースをより深く理解させ、研修員の希望、母国における業務との関連性を明確化するために研修開始前に個別面接を行う。また、研修内容に関する研修員の意見・提案研修の帰国後の業務に関する効果をより詳しく把握するために研修終了後も個別面接を実施する。面接結果の報告書を作成し、今後の研修に活用する。

#### 2) TIATC研修施設の活用による実習時間の充実

次年度より、TIATCの圃場、機械の利用により収穫、脱穀、乾燥、初摺精米の一連の作業を研修員に行わせる。研修員の宿泊場所、講師・穀物検定協会職員の来筑、TIATC技術指導員の研修への参加については今後、詳しく検討する。

#### 3) カントリーレポートの時間短縮

現在の1人1時間を短縮する。カントリーレポート発表会で行われている研修員の背景については個別面接に繰り込む。

## (2) 反省会経過報告

### 研修経過について

#### 1) JICAからの報告

JICAの専門センター化の方針により、所管変更があった。コース運営については前年度と同じにし、極力混乱をさけた。今年度は無事終了した。次年度はさらに内容の向上に努めていきたい。

#### 2) 穀物検定協会からの報告

- ・講義：予定通り出来なかったものがあったが、予備日を使い無事行った。
- ・見学：日程に基づき無事終了した。
- ・実習：受入先の方で時間的制約があったかもしれないが、手を加えた実習がやや少ないように思えた。

### I. 研修内容にかかる改善、検討すべき課題について

講義：内容が高度過ぎる、初歩的過ぎると意見の別れがあったが、これは出身国によって研修員のレベルが異なるためであり、集団コースでは毎年出る意見である。研修員全員の意見をカバーするのは不可能である。

#### 講師の語学力：

- ・通訳率は30%であったが、これは研修旅行も含めてであり、講義での通訳率はかなり低かった。
- ・研修員は直接講師に講義してもらうことを望んでいる。実際に、語学力が拙くても講師が英語で講義を行うほうが研修員も集中して聴くなど、はるかに良い点が見られた。
- ・丸一日、通訳では研修員も大変であるので半日は英語の話せる講師に講義してもらうようにカリキュラムを組みたいが、農水省、食糧庁からの講師（通訳を必要とする人が多い。）は配置が2～3年で変わり、講師が変われば、その都合も変わるので時間調整が困難である。

#### 実習について：

- ・講義を少なくして、実習を増やしてほしいという要望が研修員から挙がった。G.Iには本コースの対象は行政官（現場の技術者ではない。）であるが、実際には技術者も参加しており、このような意見が出た。これは、1ヵ国1名の応募でありかつ年齢、学歴等がG.Iの条件を満たしていれば、対象からはずれていても、拒否することは出来ないことによる。
- ・日本における収穫現場の見学が出来なかったと研修員から意見が出た。これは今年度より研修全体日程が2週間少なくなった分を、最初の部分を削ることによって調整したことにより研修開始時期が遅れた（収穫時期に間に合わなかった）ことによる。穀物検定協会のほうでは農水省に研修時期を早めることを要求できないと思っていた。従来は圃場で農家の人が横でアドバイスを与えながら収穫の実習を行った。来年度は3週間研修開始を繰り上げることが決定した。
- ・TIATCには圃場、機械等の設備があるので、それらを利用した実習を来年度分から検討していく。

#### ディスカッションについて：

- ・研修員から、個々の講義についてディスカッションの時間が少ないという意見が出た。ディスカッションはおろか、講義そのものの時間が足りないことが多い。講師も研修員も時間を気にしながら講義に臨んでいる。午前の授業開始を現在の10時から9時半に引き上げることは、講師の事前準備の関係で困難である。時間に余裕のある午後の講義については遅くまで活発にディスカッションをおこなった時もあった。
- ・ディスカッションの時間が少ないというよりも、ディスカッションを行なえる研修員が一部に片寄ったことにより、他の研修員から不満が出た可能性もある。

## II. 次年度のために新たに検討する項目

### 米の収穫処理に関する技術研修中心（小麦、その他を除く）：

- ・例えば、日清製粉の見学では、日本人が、米、小麦、その他の穀物をどのような割合で食べているのか、即ち、日本全体の穀物消費の傾向について説明を受けられる。製粉業等の見学は続けて行くべきである。ライスセンター、農協等で米に関する機械の見学が重複している部分がある。その部分を削除して製粉等の見学を当てるのはどうか。
- ・3ヵ月の研修期間で、内容が盛り沢山であると感じる。もう少し米の処理技術に集中するのはどうか。来年度は無理かもしれないが、講師、受入先との話し合いで変更可能な部分は徐々に変えて行くのはどうか。

### 研修前後の研修員との個別面接について：

- ・研修開始の時点で研修員の適正を確認する。また、個人的に関心のあることだけを話す研修員もいるので、研修員の母国における地位、立場もこちらで考慮し、コース内容からは

ずれている場合は、指導し、修正する作業を行っていく。

- ・個別面接によりコースの内容の理解をより深めさせる。

ペーパーテスト（研修前後）、現物あわせの実施：

- ・最初の時点でどれだけの知識があるのか（知らないものについては、研修中に理解させるようにする）、また最後にどのくらいコース内容を理解してもらえたかを把握する。せっかく日本に来たのだから、米の収穫後処理に関する知識はしっかり身につけてもらう。
- ・テストをやることによって得意、不得意分野の傾向を事前に知ることができる。
- ・研修員は、行政官であり（技術者ではない）、またコース内容も多岐にわたっている。ペーパーテストを設けるのが適切かどうかの問題がある。テストの作成も難しい。
- ・実施する場合、テストであるということを研修員に意識させないようにする必要がある。

その他：プレハーヴェストに関心のある研修員も多い。コンバイン等の日本独自の機械の紹介もつくばでの実習で盛り込むことを検討する。

- ・研修員は日本の農家のレベルの実態（どのような機械を用いて、どのように効率よく農作業を行っているかなど）を知ることにとっても関心がある。今後、さらにその要望に答えられるようにしていく。

## 17. 南アフリカ共和国・農村開発のための低投入型野菜栽培コース (第5回)

### 1. コース名等

#### 1) 和文・英文によるコースの名称

(和文) 農村開発のための低投入型野菜栽培

(英文) Low Input Vegetable Cultivation for Rural Development

#### 2) 研修期間

計画：平成7年9月18日から平成7年12月16日まで

実績：平成7年10月1日から平成7年12月20日まで

(要請書の取り付けが大幅に遅れたため)

#### 3) 受入人数

8名

### 2. コースの目的・背景

#### 1) コースの目的

低投入型野菜栽培技術、農村開発手法及び関連分野につき、実習・講義・討論及び研修旅行を通して理解を図るとともに、野菜の市場性、換金性及び栄養価等の観点から、旧ホームランド地域の農村開発への適用を考察する。

#### 2) 設立年度及び経緯

国連南部アフリカ教育訓練計画 (United Nations Educational and Training Programmes for South Africa) に基づき、南アフリカ黒人に対する技術協力の一環の中で平成3年度より特設コースとして農業一般コース4名を受け入れ、4年度8名、5年度7名、6年度8名を受入れた。本年は第5回目である。

過去の反省から前年度より、低投入型の農村開発に関する講義、実習を増やすとともに、コースの名称にも反映した実施体制となっている。

これは、研修員が働く地域では、小農は制限された地域諸資源の中で農業生産、農村開発を進めていかねばならないという厳しい状況に直面しているからである。

### 3. 到達目標

- 1) 低投入型野菜栽培に係る基本的事項を修得するとともに、修得した内容を業務に適用できる。
- 2) 農村開発に係る基本的事項を修得するとともに、修得した内容を業務に適用できる。
- 3) 野菜栽培及び農村開発に係る修得した知識・技術を総合的に生かし、農村部の生活向上に寄与することができる。

上記の研修項目について、理解と応用力を講義、実験・実習で養い、かつそれらを実践的な知識・技術とするために研修旅行を実施する。

講義、実験・実習、研修旅行の割合は、5：4：2とし、講義と実験・実習に重点をおいた研修方法をとる。

### 4. 研修担当スタッフ

「栽培・農業開発班」の職員・研修スタッフが担当（資料3参照）。

5. 平成7年度受入研修員名簿

No.	Name (呼称名)	Age (年齢)	Present Post (現職)	Remarks (備考)
1	Ms. <u>Giwu Dorothy</u> Princess Nozibele (ドロシー)	40	Deputy Director, Department of Agriculture and Environmental Affairs, Eastern Cape Province 東ケープ州農業環境部副部長	(D-95-02414)
2	Mr. <u>Kgopa Peter</u> Moketla (ピーター)	30	Senior Agricultural Scientist, Department of Agriculture, Northern Province 北トランスバール州農業省、上級農業技術者	(D-95-02415)
3	Mr. <u>Kgole Makgabo</u> Albram (ホーレ)	32	Senior Agricultural Technician, Department of Agriculture, Northern Province 北トランスバール州農業省、上級農業技術者	(D-95-02416)
4	Mr. <u>Thomas Radise</u> Lephalletse (トーマス)	36	Controlling Officer, Boskop Training Center, North West Province 北西部州ボスコップ訓練センター、訓練担当	(D-95-02417)
5	Mr. <u>Lebogang Wilson</u> Kgosieng (ウィルソン)	34	Controlling Officer, Boskop Training Center, Free State Province 北西部州ボスコップ訓練センター、訓練担当	(D-95-02418)
6	Ms. <u>Nxumalo Lisbeth</u> Celiwe (リスベス)	26	Community Organizer, Center for Low Input Agriculture Research and Development [CLIARD] (NGO) 低投入型農業研究開発センター(NGO)、地域指導員	(D-95-02419)
7	Mr. <u>Matodzi Nhdinwangani</u> Redrick (マトジ)	45	Agriculture Organizer, Northern Transvaal Development Cooperation, Agriculture Division 北トランスバール農業開発公社農業課職員	(D-95-02420)
8	Ms. <u>Ruth Ramogohlo</u> Raphela (ルー)	48	Field Coordinator, Rural Women Association for All Agricultural Groups, Northern Transvaal Province 農村婦人協会農業グループ、農業指導員	(D-95-02421)

(コース実施番号 J-95-10688)

## 6. 研修項目と研修実績

### 1) 研修項目と研修方法

#### (1) 野菜栽培分野

- ① 野菜栽培の圃場実習
- ② 野菜栽培概論（育苗の意義等）
- ③ 野菜栽培技術（栽培管理等）
- ④ 野菜栽培基礎（土壌肥料、病虫害防除等）
- ⑤ 野菜栽培関連技術（水利用・管理、鮮度保持、農業機械利用等）

#### (2) 農村開発分野

- ① 農業開発
- ② 農村開発
- ③ 農協の役割
- ④ 農業普及
- ⑤ 農業金融
- ⑥ 農産物流通・加工等
- ⑦ NGOの活動
- ⑧ WID

本年度は、休日、ブリーフィング、移動を除く研修期間中の単位数（半日を1単位として計算）は、合計109単位、その内訳は、講義44単位（40%）、実習33単位（30%）、研修旅行14単位（13%）、その他オリエンテーション、個別面接、開閉講式、評価会等18単位（17%）であった。

また、本年度は当センターでの講義、実験・実習のみではなく、NGOの草分け的存在であるアジア学院での2週間の研修を実施し、限られた資源を用いた伝統的農法及び実践的農村手法に関する研修を組み入れた。



2) 研修実績表

月	講義	実験及び実習	研修旅行	オリエンテーション他	月別単位
10	日本の農業と野菜栽培 (2) 野菜の育苗 (2) *環境と資源 (0.5) *農村組織 (0.5) *現代の課題 (0.5) *農村生活思想 (1) *世界の農業開発手法 (1) *性病としてのエイズ (0.5) *表現(発表)手法 (0.5) *開発と社会変化 (1) *持続維持可能農業 (0.5) *農村のリーダーシップ (1) *第3世界のリーダーシップ (0.5) *作物・野菜/畜産 (1) *集約農業: 農業/養殖 (0.5) *有機農業 (1) *食品貯蔵と流通 (0.5) *食品の流通と自給 (1) *畜産物生産システム (0.5) *適性技術 (1) 小計 17	オウレンソウの肥料・防除試験 トマトの整枝試験 キャベツの品種比較試験 オクラの品種比較試験 インゲン豆の肥料試験 パレイショの肥料試験 各作物の育苗方法 トマトの整枝法 肥料計算 定植準備と定植 *厩肥、堆肥作成 小計 9	キュウリ栽培農家見学 (1) (平島氏) 江戸崎地域農業普及センター (1) *有機農業の農家見学 (1) *アジア学院施設見学 (1) (農村生活改善技術) 小計 4	来日 (10月1日) オリエンテーション、移動、 ジョブ ディスクリプション発表 他 小計 15	45
11	野菜の病害と防除 (2) 野菜の害虫の生物物理学的防除 (2) 土壌の理化学性 (3) 畑作物の輪作体系 (2) 野菜の採種と種子貯蔵 (2) 野菜の流通 (2) 小規模農業開発 (2) 小規模水資源開発 (2) 農業普及 (2) 南ア農業の現状と展望 (2) 農村開発と女性の役割 (1) 旧ホームランドの開発事例 (2) JICA村格開発プロジェクト (1) 小計 25	施設試験の継続 生育調査、収獲調査 鮮度保持試験 作物管理 (誘引・整枝・追肥・ 間引・中耕・土寄せ等) 病原菌の検定 床土作成 練床作成 接ぎ木 養分欠乏観察 薬剤散布 小計 14	土浦生果市場見学 (1) 小計 1	小計 0	40
12	農民の組織化 (2) 小計 2	実験結果討議、まとめ 実験レポート作成 統計分析 小計 10	常総ひかり農協水海道支店 (旧水海道農協) (1) 関西鳥取方面研修旅行 (8) 野菜茶業試験場 京都府立農業試験場 鳥取大学乾燥地研究センター 小計 9	小計 3	24
単位合計	44	33	14	18	109

備考: ①半日を1単位とする、②\*印はアジア学院での研修

3) 講義の題目、講師名、単位数

区 分	講 義 課 題	単位数	講 師 名	所 属
農村開発の基礎知識 農村環境 (2.5単位)	環境と資源	0.5	長 島 清	ARI (アジア学院)
	農村組織	0.5	John B. Foover	同上
	現代の課題	0.5	植 田 仁太郎	同上
	農村生活思想	1	Sr. Alicia	同上
開発手法 (15.0単位)	農業普及	2	田 島 重 雄	帯広畜産大学名誉教授
	南ア農業の現状と展望	2	佐 藤 誠	立命館大学国際関係学部
	農民の組織化	2	中 岡 義 忠	㈱アジア農業協同組合振興機関
	農村開発と女性の役割(WID)	1	西 谷 佳 純	JICA企画部環境女性課
	NGOの旧ホームランド開発支援	2	村 上 真 平	JVC (日本国際ボランティアセンター)
	JICAの村落開発プロジェクト事例	1	西 村 美 彦	JICA・TIATC
	世界の農業開発手法	1	長 島 清	ARI (アジア学院)
	性病としてのエイズ	0.5	研修員との共同講義	同 上
	表現(発表)手法	0.5	John B. Foover	同 上
	開発と社会変化	1	三 浦 照 男	同 上
	持続維持可能農業	0.5	長 島 清	同 上
	農村のリーダーシップ	1	高 見 敏 広	同 上
	第3世界のリーダーシップ	0.5	植 田 仁太郎	同 上
低投入型野菜栽培 栽培・生理 (10.5単位)	日本の農業と野菜栽培	2	大久保 隆 弘	JICA・TIATC
	野菜の育苗	2	篠 原 温	千葉大学園芸学部
	畑作物の輪作体系	2	大久保 隆 弘	JICA・TIATC
	野菜の採種と種子の貯蔵	2	山 田 英 一	元 JICA・TIATC
	有機農業	1	小 林 啓一郎	ARI (アジア学院)
	選択科目 作物と野菜	1	小 林 啓一郎	同 上
	畜産	1	山 形 東	同 上
	集約農業：農業／養殖	0.5	長 島 清	同 上
土壌・肥料 (3.0単位)	土壌の理化学性	3	天 野 洋 司	JICA・TIATC
作物保護 (4.0単位)	野菜の病害と防除	2	米 山 伸 吾	JICA・TIATC
	野菜害虫の生物・物理学的防除	2	阿 部 登	元 JICA・TIATC
野菜栽培(農業) 関連知識・技術 (9.0単位)	野菜の流通	2	永 田 明	農林水産省食品流通局
	小規模農業開発	2	大 橋 正 明	恵泉女学園大学
	小規模水資源開発	2	海老原 洋 司	JICA・TIATC
	食品貯蔵と流通	0.5	長谷川 祥 子	ARI (アジア学院)
	食品の流通と自給	1	三 浦 照 男	同 上
	畜産物生産システム	0.5	山 形 東	同 上
	適正技術	1	唐 崎 一 雄	同 上

付記) 講師所属先の (ARI) はアジア学院で行われた講義を示す。(ARI合計13単位)

また、単位数は当筑波国際農業センターの時間数に準拠した。(JICA合計31単位)



5) 研修旅行の見学先と研修内容

見学地域	期 間	引率者	視 察 先	研修内容
茨 城	10月13日 (半日)	苗 代 加 藤	平島家	キュウリの商業栽培と経営
栃 木	10月16日 ~27日 (11泊12日)	中 本 苗 代	アジア学院	低投入型農業の研修
茨 城	10月31日 (半日)	苗 代 加 藤	江戸崎農業普及所 イチゴ、大豆栽培農家組合	茨城県の農業普及事業 施設栽培のイチゴ商業栽培
茨 城	11月24日 (半日)	加 藤 奥 田	土浦公設卸売市場	卸売市場の機能と野菜の入出荷
茨 城	12月 1日 (半日)	奥 田 苗 代	常総ひかり農業協同組合	農業協同組合の事業内容、 カントリーエレベーター見学
中 部 西日本	12月 5日 ~ 8日 (3泊4日)	苗 代 加 藤	野菜茶業試験場 府立野菜試験場  鳥取大学乾燥地研究センター	旋菜園芸の基礎研究と分野別説明 野菜の生物学的防除、 京野菜の歴史と特徴 半乾燥地農業の概要、 節水栽培の概要と施設見学

6) 研修教材

- ① “Textbook of Vegetable Production in Japan (Third Edition)” (JICA)
  - ② 「野菜の病虫防除」(タキイ種苗)
- その他の講義レジメ、スライド、実験法説明資料など

## 7. 研修の評価

### 1) 研修員による評価

- 質問内容：(1) 特に興味深かった研修内容（講義、実験・実習、研修旅行）
- (2) 研修内容のうち、帰国後、適用可能な技術
  - (3) 研修内容の問題点、次年度以降、本コース研修に望むこと  
(この研修内容になかったが、学びたかった科目 他)
  - (4) 一般生活上、困ったこと
  - (5) 帰国後の職位と展望、その他（日本の感想など）

#### 1. ドロシー

- (1) 有機農業に関する研修が、特に興味深かった。（アジア学院での薫炭作成など）  
講義は、アジア学院の農村開発に関するものが興味深かった。  
実習は、土壌消毒、接ぎ木などが興味深かった。
- (2) 実習を通じて、小規模農業のための貴重な技術を得た。
- (3) 研修員の専門性、技術レベルの幅が大きすぎる。  
アジア学院での研修は、1週間が妥当。  
農村開発分野の内容は適量。野菜栽培分野の内容を増やすべきではないか。  
講師の英語力が不十分。
- (4) アジア学院のドミトリーは、快適とはいえなかった。
- (5) 現職に復帰。

#### 2. ビーター

- (1) 講義は、有機農業に関するものが興味深かった。  
実習は、接ぎ木が興味深かった。  
研修旅行は、江戸崎の普及センターが印象深かった。
- (2) 農村開発、野菜栽培両面の実践的な知識が得られた。
- (3) 研修時期が秋から冬にかけてであり、野菜栽培の研修を受けるには不適である。  
農村開発に関する内容を更に増やして欲しい。（農産物流通や普及手法について）  
アジア学院での研修は、1週間が妥当。
- (4) 特になし。
- (5) 現職に復帰、または移動が考えられるが、本研修で学びとった技術の普及に努めたい。

#### 3. ホーレ

- (1) 講義は、小規模農村開発、旧ホームランドの開発事例が特に興味深かった。  
アジア学院では、有機農業技術を学べた。
- (2) 本研修で学んだ技術のうちいくつかを選択して普及に努めたい。

- (3) 研修員間の技術レベルの差が大きい。  
南アと日本の気候条件が大きく異なるため、これに十分配慮した研修内容が望まれる。  
全体に研修構成は、ほぼこれで良い。  
アジア学院での研修は、3日程度が妥当。  
栽培試験の結果討議が十分されていなかった。

- (4) 特になし。  
(5) 現職に復帰する。

#### 4. トーマス

- (1) 講義は、野菜栽培技術に関するものが興味深かった。  
実習は、接ぎ木、土壌消毒などが実用的だった。  
アジア学院での研修は、内容が良かったが、住環境は快適ではなかった。
- (2) 野菜栽培の有用な知識が得られた。
- (3) 研修内容には満足しているが、対象者（研修員）の業務分野の幅が広過ぎる。
- (4) アジア学院での研修は、研修当初に配置すれば、研修員の宿泊施設についてのクレームが抑えられたのではないか。
- (5) 現職に復帰。

#### 5. ウィルソン

- (1) 講義は、持続的農業が興味深かった。  
実習は、接ぎ木、練床、薫炭、床土作成などが印象深かった。  
アジア学院での研修内容は興味深かった。
- (2) アジア学院での研修は、在職するボスコップトレーニングセンターとの比較において、得るものが多かった。
- (3) 研修時期が秋から冬にかけてであり、野菜栽培の研修を受けるには不適である。  
期間も短い。
- (4) 特になし。
- (5) 現職に復帰、農業技術分野の勉強を深めた。  
日本の発展プロセスに興味を覚えた。

#### 6. リスベス

- (1) 講義、実習ともに興味深い内容だった。
- (2) 食品加工について興味を覚えた。
- (3) 研修内容に満足している。ただし、アジア学院での朝夕の共同労働は、作業内容に担当者からの技術的な説明がなく、改善が必要と感じた。  
南アからの研修員を、国別特設とせず、一般の集団研修コースの一員として受け入れら

れないのか。

- (4) 得になし。
- (5) 現職に復帰。

#### 7. マトジ

- (1) 講義は、畑作物の作付体系などが興味深かった。

研修旅行では、農協などの見学の際、農産物の出荷、流通が興味深かった。

- (2) 実習で行った、様々な育苗関連技術が有用だった。
- (3) 研修内容には満足しているが、集団コース並みに長期間研修を受けたかった。
- (4) 特になし。
- (5) 現職に復帰。

短い研修期間中、熱心に対応してくれた研修スタッフに感謝している。

#### 8. ルー

- (1) 実習で、有用な栽培技術を学べたことが印象深い。

研修旅行では、日本の農協に興味深かった。

- (2) (1)に述べた通り、様々な知識、技術が得られた。また、アジア学院で行った食品加工が印象深い。
- (3) アジア学院の研修内容は興味深く、3週間でもよい。  
英語によるコミュニケーションが、スムーズにゆかないことがあった。
- (4) 特になし。
- (5) 現職に復帰

2) 研修員による評価集約結果

項 目	内 容	集 計 (%)
1. Subject	too broad	0 ( 0)
	about right	6 (75.0)
	too narrow	1 (25.0)
2. Level	too advanced	1 (12.5)
	about right	7 (87.5)
	too elementary	0 ( 0)
3. Depth	too deep	0 ( 0)
	about right	6 (75.0)
	not deep enough	1 (12.5)
4. Logical order	good	6 (75.0)
	fair	1 (12.5)
	poor	0 ( 0)
5. Relationship of each topic	good	4 (50.0)
	fair	4 (50.0)
	poor	0 ( 0)
6. Balance of time allocation	good	5 (62.5)
	fair	3 (37.5)
	poor	0 (20.0)



#### 4) センタースタッフによる評価と反省

##### ベンチマーク、エバリュエーションテストの結果

項目(点)	氏名		ドロシー		ピーター		ホーレ		トーマス		ウィルソン		リスベス		マトジ		ルー		平均	
	B	E	B	E	B	E	B	E	B	E	B	E	B	E	B	E	B	E	ベンチ	エバ
栽培一般 (26)	24	26	13	19	21	21	18	21	7	16	9	12	15	13	4	5	13.9	17.9		
土壌肥料 (20)	5	6	7	11	8	15	4	8	3	4	0	5	3	9	3	0	4.1	7.3		
作物保護 (20)	15	18	14	15	12	12	11	12	5	8	9	13	6	8	4	7	9.5	12.9		
優良種子 (12)	10	12	2	5	5	6	5	6	4	9	0	0	4	6	0	6	3.8	6.3		
鮮度保持 (4)	4	3	2	3	4	3	2	3	2	4	4	4	2	2	0	4	2.5	3.3		
種子現物 (10)	2	10	5	7	2	7	4	3	5	6	5	8	5	10	0	1	4.5	6.5		
種子現物 (8)	5	6	4	3	0	8	0	0	0	0	0	7	0	7	0	0	1.1	3.9		
合計 (100)	65	81	47	63	52	72	44	53	26	47	27	49	35	55	11	23	38.4	54.6		

B:ベンチマークテスト

'94 (50.3 60.9)

E:エバリュエーションテスト

#### ① 研修計画

当センターでの講義、実験・実習に加え、アジア学院での2週間の研修、三重・京都・鳥取への研修旅行を実施した。本年度は要請書の接収が大幅に遅れたために開始時期を遅らせることとなった。

#### ② 研修形態

実験・実習においてはこれまでの反省から南アで実際に栽培されている野菜を中心に研修を行った。また、講義においては野菜栽培技術の講義の他、農村開発の講義を「農村開発」コースと合同で行った。しかし、本コースの独自性を出すためにも農村開発関連の講義については整理が必要である。

#### ③ 研修期間・時期

現在、本コース受入計画期間は9月中旬となっているが、同スタッフで担当している野菜生産コースの終了後のとりまとめ及び本コースの受け入れ準備を考慮し、技術研修開始を10月中下旬に設定することを検討したい。その場合、研修期間は12月下旬まで約2ヵ月程度となるが、今年度実績2ヵ月半より、アジア学院、当センターにおいて実施した合計4週間の農村開発に関する研修を2週間程度に短縮すれば本期間で対応可能であるとする。

#### ④ 講義・教材

講義については各講師が準備した講義レジメと参考資料を用いた。また、実験・実習もふくめレジメについては事前に研修員に配布し、理解を深めるように努めた。

#### 4) 改善・検討すべき課題

本（コースの）研修内容については、94年度より「農村開発」コースが実施されていること、さらに95年度から南ア「小規模灌漑技術」コースが新設されることを鑑み、来年度においては野菜栽培技術を中心とした内容にし、他のコースとの差別化を図ることを検討したい。

今年度より取り入れたアジア学院での2週間の研修については農村開発に絡む講義が中心であったが、上記の通り栽培技術を中心としたコース設定にすることを踏まえ、来年度においては1週間とすることとしたい。

今後も引き続き、南アフリカの野菜栽培の現状について情報を収集し、カリキュラム作成、コース運営に反映させていく必要がある。そのためには、カントリーレポート、今年度派遣された南ア調査団の報告を活用していくことが必要である。

## 18. 南アフリカ共和国・農村開発（第2回）

### 1. コース名等

#### 1) 和文・英文によるコースの名称

（和文）農村開発

（英文）Rural Development

#### 2) 研修期間

平成7年11月6日から平成7年12月16日まで

#### 3) 受入人数

8名

### 2. コースの目的・背景

#### 1) コースの目的：

南ア黑人農業者の経済的自立促進に携わる政府系職員及びNGO関係者に対し、地域諸資源の有効利用、生産に従事する農業者の主体的な運営組織の育成及び農業開発における基本的諸条件の整備に関し、幅広い知識・技術を提供することにより、域内農村開発・小規模農業経営改善の企画立案・実践的指導の効率的な推進に寄与することを目的とする。

#### 2) 設立年度及び経緯

1991年度に開始された南アフリカ特設コースは本年度5回目を迎えるが、野菜栽培を中心とした技術習得型研修であった。農村開発手法に特化したコースの開設要望が強かったため、平成6年度から、技術コースの「農村開発のための低投入型野菜栽培」と並行して、本コースを実施することとした。コース名は「農村開発と小規模農業経営」から「農村開発」と変更したが、本年度は昨年度に続き2回目の実施である。

なお、本コースは当センターで実施するが、講師は全て外部講師で対応し、研修監理員を1名配置して実施した、いわゆる直轄コースである。

### 3. 到達目標

- 1) 農民の組織化と人材育成の重要性が理解でき、自国での組織化推進に貢献できる。
- 2) 農業開発に必要な制度的諸条件が理解でき、その整備促進に貢献できる。
- 3) 農村開発計画策定に必要な基本的知識・技術の体系が理解でき、関連業務に適用できる。

上記の研修項目について、理解と応用力を講義で養い、かつそれらを実践的な知識とするために研修旅行を実施する。

### 4. 研修担当スタッフ

「栽培・農業開発班」の職員・研修スタッフが担当（資料3参照）。

5. 受入れ研修員名簿

平成7年度 南アフリカ農村開発コース研修員名簿 (研修期間1995年11月6日～12月16日)

No.	Name (呼称名) (生年月日)	Age (年齢)	Present Post (現職)	Remarks (備考)
1	Mr. Alfred Dube NDALA アルフレッド ('64. 11. 11)	30	Agricultural Adviser Department of Agriculture, Mpumalanga Province (ムプマランガ州農業省農業顧問)	D9502422
2	Ms. Somikazi Nomaphelo NTONGA ソミ ('59. 8. 16)	36	Principal Communication Officer Department of Agriculture & Environmental Affairs, Eastern Cape Province (東ケープ州農業環境省調整員)	D9502423
3	Mr. Mpfariseni Ešcori NETSHIKOVHELA エスコート ('51. 4. 10)	44	Land Use Development Officer Department of Agriculture, North Province (北部州農業省調整員)	D9502424
4	Ms. Michelle MULLER ミツシエール ('65. 12. 19)	29	Principal Agricultural Scientist - Livestock Department of Agriculture, Mpumalanga Province (ムプマランガ州農業省農業科学技術指導者)	D9502425
5	Mr. Petrus Jacobus MARAIS ピエト ('51. 6. 1)	44	Member of the Agricultural Credit Board Department of Agriculture, Central Government (中央政府農業省農業融資委員会委員)	D9502426
6	Mr. Adolf Pieter GROBLER ドフル ('59. 1. 26)	26	Senior Economist (Agriculture) Registrar of Cooperatives, Department of Agriculture, Central Government (中央政府農業省協同組合登録委員会シニア・エコノミスト)	D9502427
7	Mr. Tshildizi Norman NENGOVHELA ノーマン ('62. 12. 2)	32	Extension Officer Venda Agricultural Corporation (ヴェンダ農業公社普及員)	D9502428
8	Mr. Jan Christoffel POTGIETER ヤン ('63. 9. 7)	32	Chief Agricultural Development Technician Department of Conservation and Agriculture, Gauteng Province (ハウテン州農業省主任農業開発技術者)	D9502429

## 6. 研修項目と研修実績

### 1) 研修課題骨子

- ① 農民の組織化と教育
- ② 農業普及活動
- ③ 農業金融制度
- ④ 流通体制の整備
- ⑤ 農業開発
- ⑥ 農村開発
- ⑦ NGOの活動

### 2) 研修実施方法

実践的な知識・技術とするため、事例研究を中心とするが、可能な限りディスカッションの時間を設け、研修員の問題解決能力を高めるとともに、自国の自然、社会及び経済条件に適合する開発計画の策定に貢献できる応用力を養うことに努める。また、日本農業の事例研究の一環として国内関係機関の見学を行うこととする。

研修終了時には、自国の農村開発への本コースで学んだ課題の適用性をテーマとした小レポートを提出させ、これをもって研修成果品とし、併せて研修評価の資料とする。

3) 研修実績表

(11月)

日	曜日	午 前			午 後			場 所 前/後
		記	項 目	担当	記	項 目	担当	
1	水							
2	木							
3	金		文化の日					
4	土							
5	日							
6	月				来 日			
7	火	O			ブリーフィング			TBIC
8	水	O			同 上			TBIC
9	木	O			オリエンテーション			TBIC
10	金	O			同 上			TBIC
11	土	O			同 上			都 内
12	日				休 日			
13	月	O	閉講式	ｽﾀｯﾌ	O	コースオリエンテーション	ｽﾀｯﾌ	TIATC
14	火	L			小規模農業開発計画		大橋	TIATC
15	水	O	カントリーレポート準備	ｽﾀｯﾌ	O	カントリーレポート発表	ｽﾀｯﾌ	TIATC
16	木	L			野菜の流通		永田	TIATC
17	金	L			NGOの旧ホームランド開発支援		村上	TIATC
18	土				休 日			
19	日				休 日			
20	月	L	JICAの村落開発プロジェクト事例	西村	L	農村開発と女性の役割(WID)	鈴木	TIATC
21	火	L			農業普及		田島	TIATC
22	水	L			南ア農業の現状と展望		佐藤	TIATC
23	木				勤労感謝の日			
24	金	O	宇都宮研修旅行オリエンテーション	ｽﾀｯﾌ	V	畜産農家見学	ｽﾀｯﾌ	TIATC
25	土				休 日			
26	日				移動(つくば→宇都宮)			
27	月	L	産地における農民組織活動	津谷	V	農家等見学	津谷	宇都宮大学
28	火	L	野菜の流通システム	玉城	V	同左見学	玉城	宇都宮大学
29	水	V			県農試・普及所見学(農業技術開発・普及)		菊地	宇都宮大学
30	木	L	農業協同組合の金融制度	泉田	V	農業協同組合見学	泉田	宇都宮大学
		1. 講義 (L) 15		4. 研修旅行 (T) 0				
		2. 実験、実習 (P) 0		5. その他 (O) 16				
		3. 見学 (V) 6		6. ( )				
				合計				37

TIATC：筑波国際農業研修センター、TBIC：筑波インターナショナルセンター

(12月)

日	曜	午前			午後			備考
		記	項目	担当	記	項目	担当	
1	金	V	農民活動の実感見学				宇佐美	宇都宮大学
2	土		移動 (宇都宮→つくば)					
3	日		休日					
4	月	L	農民の組織化				中岡	TIATC
5	火	T	移動 (つくば→名古屋)				ｽｸ77	
6	水	T	地域開発についての講義				ｽｸ77	UNCRD
7	木	T	移動 (名古屋→奈良)	ｽｸ77	T	農業後継者育成について	ｽｸ77	農業大学校
8	金	T	京都見学	ｽｸ77	T	移動 (京都→つくば)	ｽｸ77	
9	土		休日					
10	日		休日					
11	月	O	レポート作成説明	ｽｸ77	O	レポート作成	ｽｸ77	TIATC
12	火	O	レポート作成	ｽｸ77	O	レポート作成	ｽｸ77	TIATC
13	水	O	レポート発表会	ｽｸ77	O	評価会	ｽｸ77	TIATC
14	木	O	閉講式	ｽｸ77	O	帰国準備		TIATC
15	金		帰国準備					
16	土		帰国					
17	日							
18	月							
19	火							
20	水							
21	木							
22	金							
23	土							
24	日							
25	月							
26	火							
27	水							
28	木							
29	金							
30	土							
31	日							

1. 講義 (L)	2	4. 研修旅行 (T)	8
2. 実験、実習 (P)	0	5. その他 (O)	9
3. 見学 (V)	2	6. ( )	
		合計	21

4) 講義の題目、講師名、単位数

講義タイトル	講師名	所属先	単位数
小規模農業開発	大橋 正明	恵泉女学園大学専任講師	2
野菜の流通	永田 明	農水省食品流通局野菜流通課	2
NGOの旧ホームランド支援	村上 真平	JVC南ア事業担当	2
JICAの村落開発プロジェクト事例	西村 美彦	JICA筑農セ研修室	1
農村開発と女性の役割 (WID)	西谷 佳純	JICA企画部環境女性課	1
農業普及	田島 重雄	帯広畜産大学名誉教授	2
南ア農業の現状と展望	佐藤 誠	立命館大学教授	2
青果物の流通機構	玉城 昌幸	宇都宮大学農学部農業経済学科教授	1
農業協同組合の金融制度	泉田 洋一	同助教授	1
農民の組織化	中岡 義忠	アジア農業協同組合振興機関	2
農村・都市開発	Suselo他	国連地域開発センター	2
合計			18

5) 研修旅行の視察先と研修内容

地域	期間	視察先	主な研修内容
茨城県	11月24日(半日)	畜産農家	畜産農家の活動状況
栃木県	11月27日(半日)	二宮町農業協同組合	農民組織活動
	11月28日(半日)	宇都宮市中央卸売市場	野菜・果実の卸売と流通
	11月28日(半日)	真岡農協農産物流通センター	青果物の流通
	11月29日(半日)	栃木県農業試験場、 真岡農業改良普及センター	農業研究・普及体制
	11月30日(半日)	鹿沼市農業協同組合	農業金融制度
	12月1日(半日)	近郊農家3軒	農家の活動状況
	12月1日(半日)	宇都宮農協カントリーエレベーター	農民活動の実態
名古屋・関西	12月6日 ～12月7日 (3泊4日)	国際連合地域開発センター 奈良県農業大学校	地域開発 後継者育成



## 6) 研修教材

### (1) JICAテキスト

- JICA's Efforts in Women - In - Development (JICA, 1995)
- WID Issues in Rural Development (JICA)

### (2) 研修先テキスト

- New Training Design for Local Social Development -- The Single System Design in Competency - Based Training -- Vol. I Development of Training Curriculum (by John F. Jones & Toshihiro Yogo, UNCRD)

### (3) 市販テキスト

なし

### (4) その他参考資料

- NGOs in Bangladesh and Japan (by Masaaki Ohashi)
- Vegetables in Japan: Changes in the Past 30 Years and the Present Situation (by Akira Tanino)
- Agricultural Development as Part of Regional Development in Indonesia (by Yoshihiko Nishimura)
- Japan's Initiative on WID (Ministry of Foreign Affairs)
- Processes of Development of Agricultural Extension in Japan (by Shigeo Tajima, 1991)
- Agricultural Extension in the World (by Shigeo Tajima, 1995)
- Current Overview and Future Prospect of South African Agriculture (by Makoto Sato)
- Agricultural Cooperative System in Japan (by Yoshitada Nakaoka)
- Historical Review of Agricultural Cooperative Movement Japan and Its Work to Overcome Difficulties (by Yoshitada Nakaoka)
- Outline of the Agriculture in Ninomiya (by Yoshito Tsuya)
- Outline of Cooperative Agricultural Extension Service in Japan (MAFF)
- The Role of Farmers' Organizations in an Effective Credit Delivery System - Agricultural Cooperatives in Japan (Y. Izumida & T. Yurugi) APO Seminar on Transaction Costs of Farm Credit
- The Kou in Japan: A Precursor of Modern Finance (Y. Izumida), 1992. "Informal Finance in Low - Income Countries" (Edited by D. W. Adams & D. A. Fitchett), Westview Press
- Development of Rural Financial Markets in Sub - Saharan Africa - Lessons of Successful Experiences in Asian Countries (F. Egatsu & Y. Izumida)
- UNCRD Newsletter No. 39 Spring 1995
- Rural - Urban Development in Africa (by Samba Mukoko)

## 7. 研修の評価

### 1) 研修員による評価

#### I 講義について

- 内容はもっと農村開発に直結しているべきである。大橋とUNCRDでの講義は適切なものだったが他は余りにも日本の現状の説明に終始していてそこに至る歴史的過程や戦略への言及が抜けている。(Alfred)
- 講師の大部分は南ア農村部の状況を余りにも知らない。講義は一般的に基礎的すぎる。(Somi)
- 農協の比重を減らして戦略面を強化すべきである。(Escort)
- 講義開始時間を早くして、一日に2コマではなく3コマやってほしい。研修場所が日本であることにはなんら問題はない。(Michelle)
- 現在の統計的データではなく、方法論、政策、ケーススタディについて研修員とのやり取りを通して問題解決の方向を探るべきである。(Piet, Dolf, Jan)
- 日本の現状についての情報は気象条件、小規模農家の内容などが違いすぎてあまり有効とは言えない。(Piet, Jan)

#### II 見学、研修旅行について

##### 野口牧場：

- 経営者がアメリカ製機材を直輸入して経費節減に努力している様子に感銘を受けた。(Dolf, Jan)

##### 宇都宮大学：

- 大学での午前中の講義はよかった。(Piet)
- 午後現場に見学に行った時には、すでにその日の活動（収穫、集荷等）は終了していることが多かった。(Jan)

##### 研修旅行（名古屋、奈良、京都）：

- UNCRDでの講義はすばらしかった。図書室で調べ物をする時間が欲しかった。(Michelle)
- 奈良県農業大学校の見学は有意義だった。
- 京都での歴史的建造物や庭園の見学も楽しかった。

##### 共通：

- 交通手段は極めて迅速で快適だった。(Dolf)
- 実際に農業生産活動が行われている現場、養鶏場、養豚場、養魚場もできれば訪問したかった。(Jan, Alfred)
- 講義と見学の時間配分は適切だった。(Dolf, Michelle)

### Ⅲ コース管理について：

#### 一 一般：

- －あらゆる面で非常に良く管理されていた。関係各位の努力を多としたい。
- －レポートの作成、発表は時間的には非常に厳しかったがコースのまとめとして有用だった。  
(Dolf, Jan)

#### 厚生活動、宿舎：

- －ディズニールランド、筑波山登山などの厚生活動も大いに楽しんだ。(Dolf)
- －当初TBICに入れずにホテルに宿泊した。ホテル自体に不満はないが、いろいろな活動ができずに不便であった。

### Ⅳ その他：

#### JICAへの要望：

- －参加研修員として選ばれたという通知が出発の2日前に来るのは余りにも余裕がなさ過ぎる。
- －JICA本部で何らかの改善策を検討中である。(中本)
- －自分の州から参加したのが1人だけでは効果が期待できない。(Jan)
- －専門家を南アに送って選考をするのはどうか？(Dolf)
- －再度研修員として採用される可能性はあるか？(Somi)
- －過去にいくつか例はある。(中本)
- －年齢制限があるのは良いことだ。(Jan)

#### 一般的感想（滞在中最も感銘を受けたこと）：

- －日本の文化、伝統、日本人の態度－勤勉で所属する組織に忠実、礼儀正しく親切で効率的である。人こそ日本の資源だと思う。(Dolf)
- －伝統、職場その他での和気藹々とした生き方、環境に配慮している点。(Norman)
- －日本人の時間厳守の精神と平和を愛する心。(Escort)
- －安全な社会であるということ。TBICという国際的な場を経験できたこと。(Michelle)
- －安全、仕事に打ち込んでいること、清潔さ（ゴミが見当たらない）。(Piet)

## 2) 研修員による評価集約結果

項 目	内 容	集計 (%)
1. Subject	too broad	3 (37.5)
	about right	4 (50.0)
	too narrow	— (12.5)
2. Level	too advanced	0 ( 0)
	about right	3 (37.5)
	too elementary	5 (62.5)
3. Depth	too deep	0 ( 0)
	about right	3 (37.5)
	not deep enough	5 (62.5)
4. Logical order	good	4 (50.0)
	fair	4 (50.0)
	poor	0 ( 0)
5. Relationship of each topic	good	1 (12.5)
	fair	7 (87.5)
	poor	0 ( 0)
6. Balance of time allocation	good	4 (50.0)
	fair	4 (50.0)
	poor	0 ( 0)

## 3) センタースタッフによる評価と反省

### ① 研修計画

ブリーフィング・オリエンテーションに引き続き、コース・オリエンテーション、カントリーレポート発表、7つのテーマについて講義・討論及び畜産農家の見学の後、宇都宮大学農学部で日本の現状に講義と見学を通じて触れた。その後、名古屋での国連地域開発センターでの講義を含む名古屋・関西研修旅行、講義、研修レポート作成・発表、評価会、閉講式でプログラムを構成した。宇都宮での見学先の多くが農協関連で重複が多かったため整理が必要である。

### ② 研修形態

講義・見学を通じて情報収集・意見交換を図るセミナー形式で行なった。研修目的・研修期間との関連で現行形態に問題はないと思われる。

③ 期間 ④ 密度 ⑤ 配列

研修期間は適当であった。また、密度、配列についても問題はなかった。

⑥ 講義 ⑦ 見学 ⑧ 旅行

内容・構成が単なる日本の現状紹介のものが多かった。歴史的背景の分析、他国との比較に基づいた農村開発の方法論に重点を置いたものを取り組むことが望まれる。見学先については国立の研究所を除いてほぼ網羅した。

⑨ 教材

各講師が準備した講義レジメと参考資料を用いた。レジメについては事前に研修員に配布し、理解を深めるようにした。

⑩ 交通手段

研修開始当初は館外宿舎であったためセンターへの通勤が不便ではあったが、センターバスを効率的に利用し対処した。見学・研修旅行においてはセンターバス、庸上バス、公共機関を使用し、問題は見られなかった。

⑪ 厚生・食事

各種厚生行事への評価は高く、日本語、スポーツ大会、筑波山登山等を楽しんだ様である。TBICでの食事については大部分が満足していた。

⑫ ブリーフィング・オリエンテーション

評価は高く、特に日本の経済についての講義が印象深かった様である。

4) 改善・検討すべき課題

今後も引き続き、南アフリカの農業について情報を収集し、カリキュラム作成、コース運営に反映をさせていく必要がある。そのためには、カンントリーレポート、今年度派遣された南ア調査団の報告を活用したり、今年度新たに見学先として加えた国連地域開発センター等の専門家からの助言を多く取り入れたり連携を深めていくことが必要である。

農村開発各論の概要説明とするか、分野を絞って掘り下げたカリキュラムとするのか引き続き検討をしていくことが必要である。

講義内容・構成が単なる日本の現状紹介のものが多かった。歴史的背景の分析、他国との比較に基づいた農村開発の方法論に重点を置いた講義をより多く盛り込んでいき、日本の事例を参考に今後の南ア農業開発の在り方についての討論を中心としていくことが望まれる。

## 19. カンボディア農村開発（国別特設）コース（第2回）

### 1. コース名等

#### 1) 和文・英文によるコースの名称

(和文) カンボディア農村開発（国別特設）コース

(英文) Country Focused Training Programme in Rural Development for the Kingdom of Cambodia

#### 2) 研修期間

平成7年9月25日から平成7年10月24日（30日）まで

#### 3) 研修機関

国際協力事業団 筑波国際農業研修センター等

#### 4) 定員、割当国 応募人数 受入人数

定員 5名

割当国及び応募人数：カンボディアから5名

受入人数：定員枠により5名

個別研修員の受入人数2名 計7名

### 2. コースの目的・背景

#### 1) コースの背景

長期に亘る戦乱により疲弊したカンボディア復興を支援する為、日本を含めた三角協力を始め、国際機関及びNGOの支援を含め、多くの協力が行なわれつつある。

カンボディアの農業人口は約85%であるが農産物を輸入している状況がある。又、可耕地への地雷の埋設除去農民組織の未整備等、多くの困難を抱えている。これら状況の中でカンボディアの農業農村開発への自助努力への支援の一環として本コースは開設された。

#### 2) コースの目的

- (1) 農村開発戦略の中で特に農業開発を中心として情報知識を提供する。
- (2) 農村開発におけるインフラストラクチャーの重要性を理解する。
- (3) 日本の開発経験を学び農村開発計画を策定できるようになる。

### 3. 研修対象者・資格要件

- 1) 自国政府からの推薦を受けた者であること。
- 2) 大学卒業者又は同等の資格を有していること。
- 3) 現在農村開発、特に農業開発に従事していること。
- 4) 所属している組織の中で指導的又は行政的立場の者。
- 5) 必要十分な英語力を有していること。
- 6) 27才以上40才以下。
- 7) 心身ともに健康であること（女性の場合は、妊娠していないこと）。
- 8) 軍事に従事していないこと。

5. 受入れ研修員名簿

平成7年度 カンボディア農村開発（国別特設）コース研修員名簿

No.	Name (呼称名)	Date of Birth (Age)	Present Post (現職)	Home Address (住所)
1	Mr. Ngy Chanphal チャンパール	1959. 4. 25 (45)	Under Secretary of State / DG, Ministry of Rural Development 地域開発省 次官	Ministry of Rural Development, Phnom Penh, Cambodia Tel: (855) - 23 - 26814
2	Mr. Peou Yada ヤダー	1949. 3. 19 (46)	Deputy Director, Department of Rural Economy, Ministry of Rural Development 地域開発省 地域経済局 次長	Ministry of Rural Development, Tel: 2 - 6814 Tel: (855) - 23 - 26814
3	Mr. Bun Chan Van Nak ヴァンナック	1969. 2. 1 (26)	Vice Director, Rural Development Center, Kompong Speu Province, Ministry of Rural Development 地域開発省 コンボンスプー州局 次長	55 St. 350 Sangkat Beng Keng Korng 3, Khan Chamca Mon, Phnom Penh
4	Mr. E Sarun サルン	1955. 7. 30 (40)	Vice Director, Provincial Health Direction Kompong Speu Province コンボンスプー州 保健局 次長	Provincial Health Department, Kampong Speu Province 140Eo, Road 392,
5	Mr. Kong Sakhon サコーン	1948. 10. 1 (47)	Deputy Director, Department of Community Development, Ministry of Rural Development 地域開発省 地域開発課 課長補佐	Sangkak Beng Keng Kang I, Khan Chamcar Morn, Phnom Penh.
6	Mr. Sok Sitheng シーエイン	1959. 10. 9 (36)	Vice Chief, Agronomy Office, Department of Agriculture, Takeo Province, Ministry of Agriculture, Forestry, and Fishery 農林水産省 タケオ州 農産課 課長補佐	Department of Agriculture, Takeo Province Tel: 53 238
7	Mr. Tep Sophat ソハート	1959. 5. 13 (36)	Deputy Chief, Rural Development Division, Takeo Province, Ministry of Rural Development 地域開発省 タケオ州地域開発課 課長補佐	Department of Rural Development Takeo Province



6. 研修実績

カンボディア「農村開発」コース 日程表

月	日	曜日	時間	日程	研修方法	研修機関/講師等	講義室	場所
9	25	月		(来 日)				東 京
	26	火		ブリーフィング				↓
	27	水	9:30~10:30	プログラム オリエンテーション				↓
			11:00~12:00	農水省表敬				↓
			14:00~16:00	JICA農業開発に於ける協力方針				↓
	28	木	10:00~12:00	農村・地域開発における女性の役割	講義			↓
			14:00~16:30	生活改善における女性の役割	講義			↓
29	金	10:00~12:00	日本における水利事業の歴史	講義			↓	
		14:00~16:30	水資源開発の経済性について	講義			↓	
30	土			休 日			↓	
10	1	日		東京→鹿児島(移動)				↓
	2	月		県庁表敬・鹿児島県の農業開発	見学			鹿児島
	3	火		地域保健行政・視察	↓			↓
	4	水		農業普及・農業協同組合活動の	↓			↓
	5	木		現場視察	↓			↓
	6	金		農家視察等	↓			↓
	7	土		鹿児島→東京(移動)	↓			↓
	8	日						東 京
	9	月	10:00~16:00	「農業協同組合論」	講義			↓
	10	火		祭 日				↓
	11	水	10:00~12:00	「小規模灌漑システム開発について」	講義			↓
					講義			↓
	12	木	14:00~17:00	「農民金融論」	講義	農業総合研究所/両角和夫氏		↓
	13	金	10:00~16:00	「地域開発論」	講義			↓
	14	土						↓
	15	日						↓
	16	月	10:00~16:00	カンントリーレポート発表会	発表会			↓
	17	火		東京→つくば(移動)				つくば
			14:00~16:30	「農業・地域開発」(インドネシアのケース)	講義			↓
	18	水	10:00~16:00	「農業普及論」	講義			↓
	19	木	10:00~16:00	「農業開発論」	講義			↓
	20	金		評価会				東 京
				つくば→東京(移動)				↓
	21	土						↓
22	日						↓	
23	月	10:00~11:00	修了式			TIC203	↓	
		11:00~	懇談会			TIC食堂	↓	
24	火						↓	
							帰 国	

鹿児島県に於る詳細日程

月	日	曜日	時間	研修内容	研修機関／講師等
10	1	日		東京→鹿児島（移動）	鹿児島市内泊
10	2	月	9:00～9:20 10:30～11:30 14:00～15:00	鹿児島県庁表敬訪問 試験研究の概要と主な研究 南薩畑地かんがい視察	農業試験場 指宿農林事務所 鹿児島市内泊
10	3	火	9:00～12:00 12:00～13:00 13:00～14:00 14:00～17:00	宿舍発→桜島経由→アジア・太平洋農村研修センター着 昼食 研修プログラム オリエンテーション 笠野原土地改良区の事業概要説明及び、畑かん営農現場視察	センターレストラン 笠野原土地改良区 アジア・太平洋農村研修センター泊
10	4	水	9:30～12:00 12:00～13:00 14:00～17:00	農業協同組合活動の概要と活動 現場の紹介 昼食 農業技術の開発と普及について 講義及び開発事例紹介	J A 高山 J A ロイヤル21 農業大隅支場バイオ研究所 アジア・太平洋農村研修センター泊
10	5	木	9:30～12:00 12:20～13:30 13:50～14:00 14:00～16:30	普及指導活動の取組みについて 課題設定→指導体制→現場活動事例 昼食 鹿屋合同庁舎表敬 地域保健行政の取組みについて 説明及び活動現場の視察	高山普及所 笠之原会館 総務事務所 鹿屋保健所 アジア・太平洋農村研修センター泊
10	6	金	10:00～11:30 12:20～13:30 14:00～15:30	生産基盤の条件整備による産地確立と地域活性化事例の検討 昼食 国際物流拠点（志布志港）	松山町 ホテル王垣 くみあい飼料工場 アジア・太平洋農村研修センター泊
10	7	土		センター→空港→東京（移動）	

7. 講義題目及び講師名

講 義 題 目	講 師 名	所 属 先
JICAの農業開発協力について	古 屋 年 章	国際協力事業団 農林水産開発 調査部 計画課
農村開発における女性の役割	西 谷 佳 純	国際協力事業団
生活改善における女性の役割	穴 井 達 也	農林水産省 農産園芸局 生活課
農業用水利用の変遷について	中 里 良 一	農林水産省 構造改善局 計画部 地域計画課
日本における水資源開発	水 見 洋	農林水産省 構図改善局 計画部 事業計画課
農業協同組合論	中 岡 義 忠	アジア農業協同組合振興機関
小規模灌漑システム	金 森 秀 行	国際協力事業団 国際協力専門員
日本の農業機械化について	半 田 淳	農林水産省 農産園芸局 肥料機械課
山村地域における振興施策の概要	沖 沢 幸 二	林野庁 指導部 計画課
農民金融論	両 角 和 夫	農林水産省 農業総合研究所
地域開発論	笠 井 利 之	国際協力事業団 国際協力専門員
農業・地域開発「インドネシアのケース」	西 村 美 彦	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター
日本の農業普及事業について	中 村 成 二	日本農業普及学会
農村開発計画	千 田 徳 夫	国際協力事業団 筑波国際農業研修センター

## 8. 実施体制

主な受入先：農林水産省構造改善局、鹿児島県アジア太平洋農村研修センター等

研修担当者 江川敬三

研修監理員 松浦明子 那須芳恵

### 1) 研修計画目的達成度

研修員の年齢、経験、背景、語学力にかなりばらつきがあるが、国別特設のコースとして全体を見ればかなりの達成度は得られたようだ。但し問題点として 1. 使用言語はGIに述べられているように英語であったが、今回は殆ど全員がコミュニケーション出来る英語力が不足した為、急速日本語講義をクメール語に変更、従って質疑応答、カンントリーレポート発表迄全てクメール語に頼ってしまったが研修効果を考えると止むを得ない処置であったと思う。結果としてかなり達成度は高いと思われる。

2. 5名の内2名が医療保健分野からの参加であり、農業国カンボディアにとっての農村開発は教育、医療保健を含む事を考慮すれば今回の人選は妥協であるが、2名の研修員にとって専門外の講義の興味又理解度、有益性に関しては問題がある。

研修計画を幾つかの分野を含めた（広く浅く）ものにするか又は農業に焦点をあてるか今後の課題として残る。

### 2) 研修形態

講義、(含むケーススタディ) 見学、で行われたが随時討論も入り配分はよかった。

### 3) 期間/4) 密度/5) 配列:

期間、密度は妥当。研修員からは「土、日の休みは多すぎる。週末を使って農家訪問などしたい」との意見があった。

配列に関しては講師の都合が許せば再考が望まれる。例えば、地域開発、農村開発論、日本の行政組織（国、県、市町村）等の総論そして農業協同組合論、農民金融論、普及事業、土地改良事業等学んだ後見学が出来れば視察の際より理解が深まり現地の人々との触れ合い及び討論にもっと時間を使えると思う。

### 6) 講義/7) 見学/8) 旅行:

7日まとまった鹿児島滞在で農村開発の全体をみれた事は良かった。

講義：経験にもとづく専門員によるケーススタディは理解しやすく研修員も共感を覚え討論にまで発展した。

### 9) 材料 :

研修旅行のごく一部を除いて殆ど英語の資料が揃い研修員から好評だった。

10) 施設、機器／11) 交通手段

講義は農林水産省とIFICとに別れて行われたので（午前と午後の事もあった）移動が多く出来れば一か所が望ましい。

12) 厚生／13) 食事、宿泊施設等

IFIC、鹿児島太平洋農村研修センター、筑波国際センターは食事とも問題なく日本滞在をより快適にしたようだ。但し国際筑波センターでは研修員にもタオルを支給してほしい。

14) プリーフィング、オリエンテーション

時間が許せばTICで行っているJICAオリエンテーションに参加し日本に関する基礎的知識を学べれば研修内容を理解するのに役立つのではないと思われる。

15) 受入れ先に関する報告

研修旅行は農村開発に必要な主題を盛り込んだプログラムだったが、惜しむらくは高山農協、鹿屋保健所等は受入れが不慣れな為か、概要説明に大部分の時間（全通訳）を使い質問、討論の時間が取れず残念だった。

16) その他

- \* 準高研修員（個別）1名、一般個別1名の参加から成る7名のグループだったが準高と一般と一緒にすることで有益と不都合な両面があった。チャンパール氏が全ての点でリーダーであり研修を盛り上げグループの中で只一人英語でコミュニケーション出来る研修員であった。他の若い研修員にとっては同省の上役であるため、かなり遠慮があり発言にも配慮があった。
- \* 「カンボディアの現状の状況からみて農村開発の専門家でしかも英語が話せる人は非常に少ないので、研修効果を考えると今後は資料は英語で講義はクメール語」と評価会、クエスショネアで研修員が希望を出している。

## 第3章 個別研修コース研修報告

平成7年4月から平成8年3月までの当センター担当である農業分野の個別研修実施数は312件であった。このうち7年度の新規研修員受入れ数は269人、また6年度からの継続数は43人であった。以下、平成7年度新規受入研修の実績について総括する。

平成7年度の個別研修員の受入実績総括表を表3-1に示した。本年度は6年度新規受入243人に比べ26人の増加となっている。また詳細の個別データは第4章資料編9、10、11を参照されたい。

### 1) 受入れ国

受入れ国数は48カ国に亘り6年度に比べ7カ国の増加となった。地域別ではアジアが53%、中南米23%、アフリカ17%、中近東6%、東欧1%となった(図3-1参照)。

### 2) 研修分野

農業分野研修の内訳は農学一般62%、農業土木29%、農学機械4%、養蚕2%、食糧増産2%、農産加工1%であった(図3-2参照)。

### 3) 研修員年齢

個別研修に参加した研修員の年齢構成は、30~34才が25%、35~39才が22%、40~44才が17%と中間層が多く20才から50才に亘っている(図3-3参照)。

### 4) 研修期間

1カ月未満の研修が35%と最も多く、1~2カ月が19%、2~3カ月が14%で以下長くなるほど少なくなっている。研修員1人当りの平均研修期間は1.4カ月であった(図3-4参照)。

### 5) 研修受入れ機関

受入れ機関は農林水産省が65%と最も多く、次いで文部省7.8%、以下都道府県、民間企業となっており、国の機関での研修が主体となっている。また当センターでの実施は14.5%で主として当センター直営集団コースへの参加となっている(図3-5参照)。

表 3 - 1

## Information on Individual Courses in FY 1995

個別研修員受入実績 (平成 7 年度)

	Field of Training 研修分野						Type of Award 受入形態					TOTAL
	農業一般 Agriculture General	農業土木 Agricultural Engineering	農産加工 Agr. Products Processing	養蚕 Sericulture	農業機械 Farm Machinery	食糧増産援助 Aid for Increased Food Supply	カウンターパート Counterpart	個別一般 Plain Individual	国別特設 Country Focused Group Training	国際機関 International Organization	東欧支援 Support for Eastern Europe	
ASIA												
1 Bangladesh	9						9					9
2 Bhutan		2					2					2
3 Cambodia	8	1				2	5	1	5			11
4 China	5	4	4				13					13
5 India				5			5					5
6 Indonesia	15	7			1		23					23
7 Korea	2						2					2
8 Laos	3	2					5					5
9 Mongolia	1	1					2					2
10 Myanmar		4					4					4
11 Nepal	5	1					6					6
12 Pakistan	5						5					5
13 Philippines	18	5					24					24
14 Sri Lanka	8	2					10					10
15 Thailand	6	11					17					17
16 Viet Nam	2						2					2
Sub-total	87	40	4	5	1	2	134	1	5	0	0	140
MIDDLE EAST												
17 Egypt	1	2			3		6					6
18 Iran	1	1			1		3					3
19 Oman	1						1					1
20 Syria	1						1					1
21 Tunisia		2					2					2
22 Turkey		2					2					2
23 Morocco		1					1					1
24 U.A.E.		1					1					1
Sub-total	4	9	0	0	4	0	17	0	0	0	0	17
AFRICA												
25 Cote D'Ivoire					4		4					4
26 Ethiopia	1						1					1
27 Ghana		3					3					3
28 Kenya	6	1			1		8					8
29 Malawi	1						1					1
30 Senegal		2					1	1				2
31 South Africa	18								18			18
32 Tanzania	6						6					6
33 Zimbabwe		2					2					2
Sub-total	32	8	0	0	5	0	26	1	0	18	0	45
LATIN AMERICA												
34 Argentina	3						3					3
35 Bolivia						1	1					1
36 Brazil	8						8					8
37 Chile	6						6					6
38 Colombia	1	3					4					4
39 Dominican Rep.	4	2					6					6
40 El Salvador		1					1					1
41 Honduras		5					5					5
42 Mexico	4	4					8					8
43 Paraguay	10	3				1	13	1				14
44 Peru	1					1	1	1				2
45 Uruguay	5						5					5
Sub-total	42	18	0	0	0	3	61	2	0	0	0	63
EUROPE												
46 Albania	1										1	1
47 Hungary	1										1	1
48 Romania		2									2	2
Sub-total	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
Grand Total (48 Countries)	167	77	4	5	10	5	238	4	5	18	4	269

Remark: Number of participants received in FY 1994 and stayed by FY 1995 is not included in this Data.

Number of Individual Participants participated in TIATC group training courses is included in this Data

图 3-1 REGIONS 受入地域

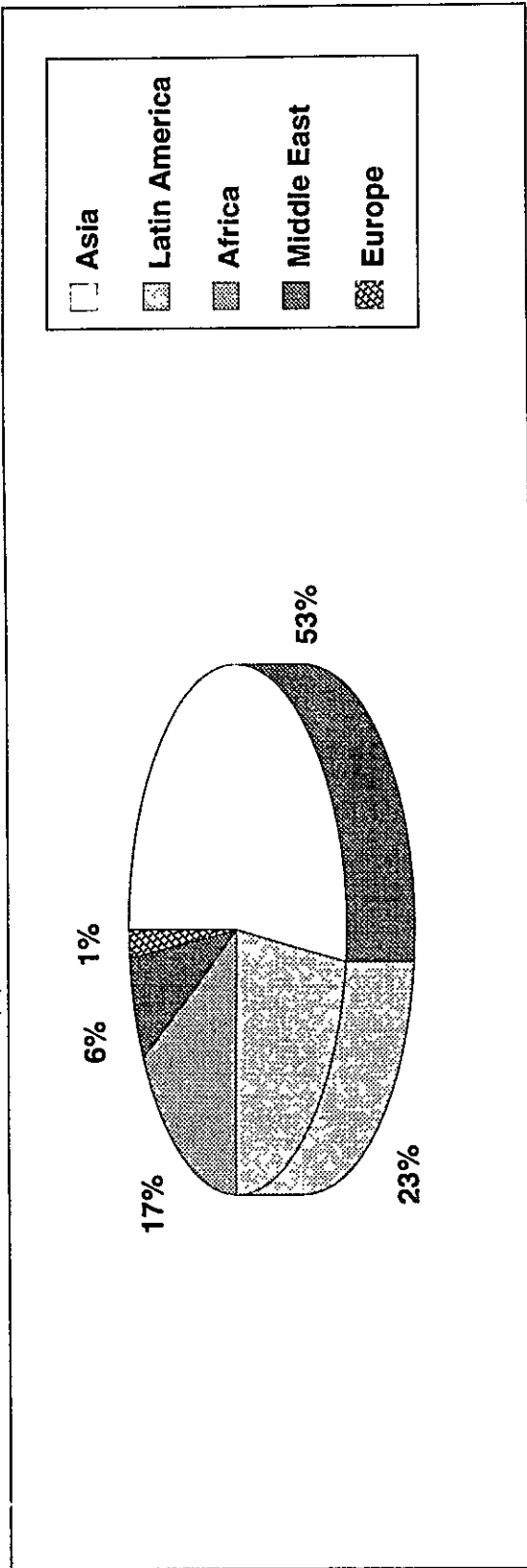


图 3-2 FIELD OF TRAINING 研修分野

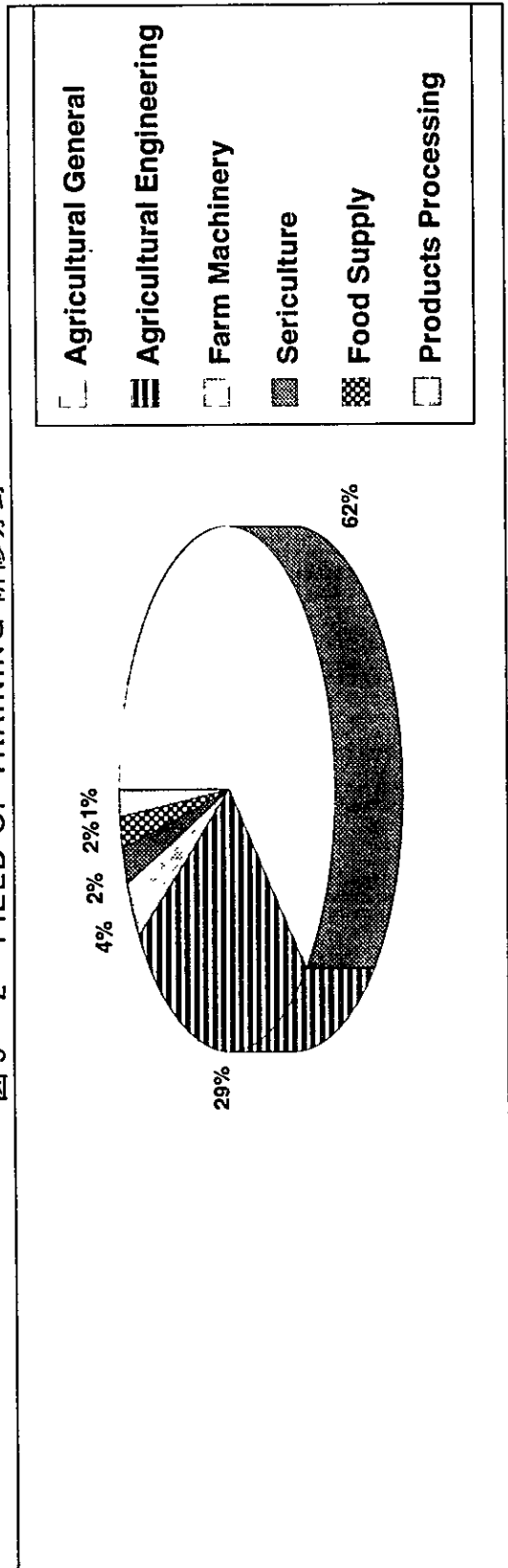




图 3-3 Age of Participants 研修員年齡

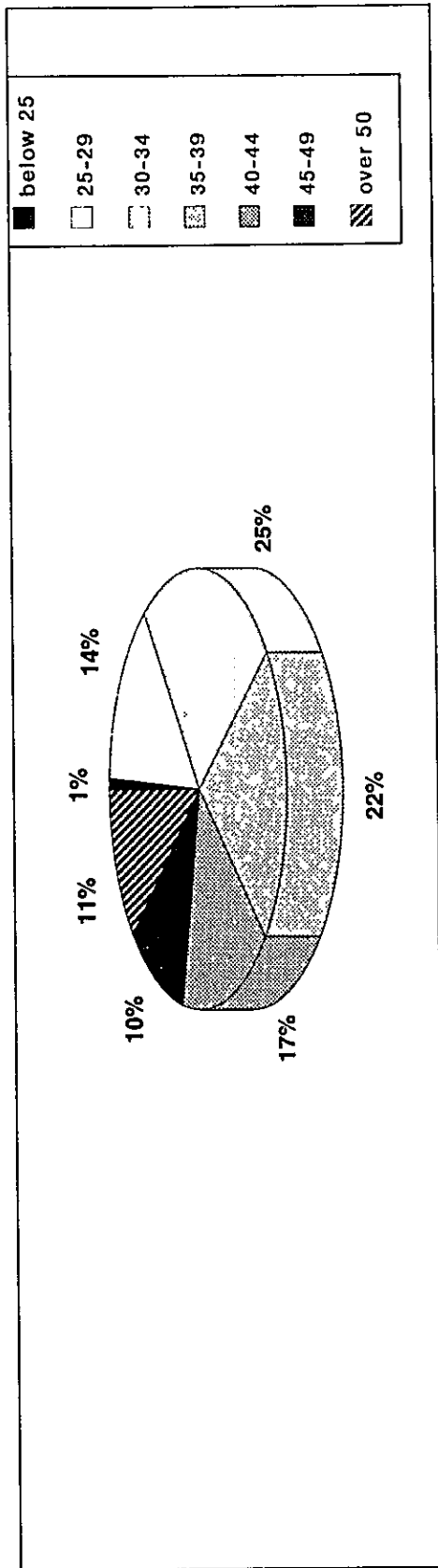


图 3-4 Duration of Training 研修期間

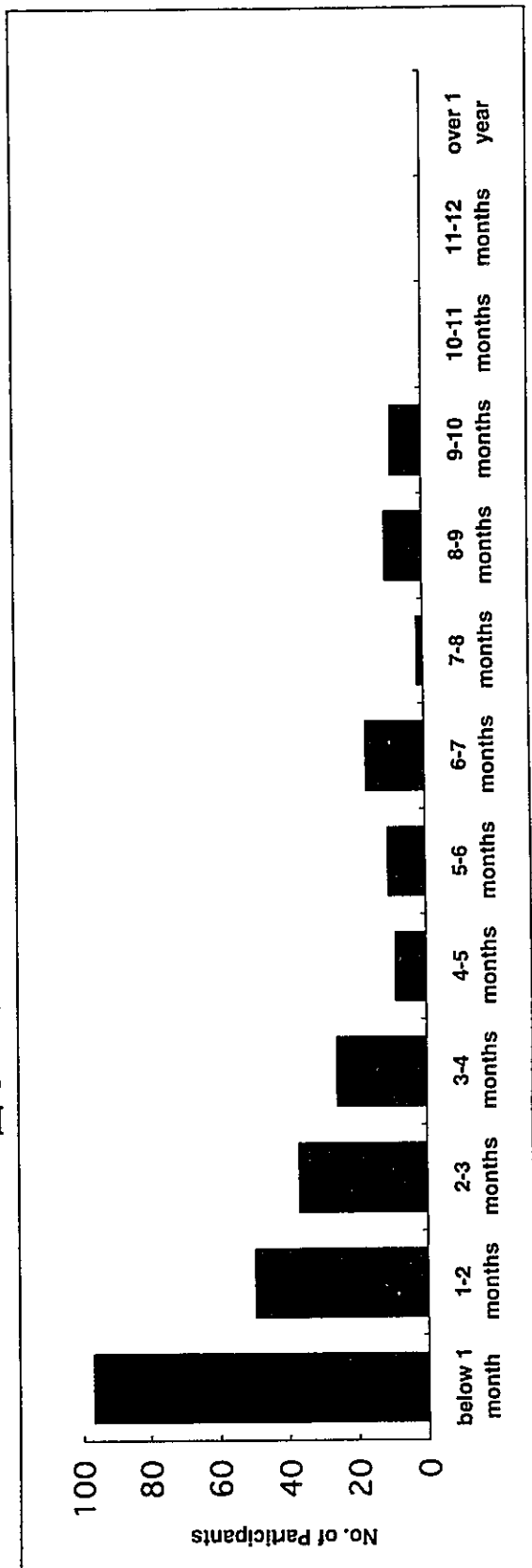
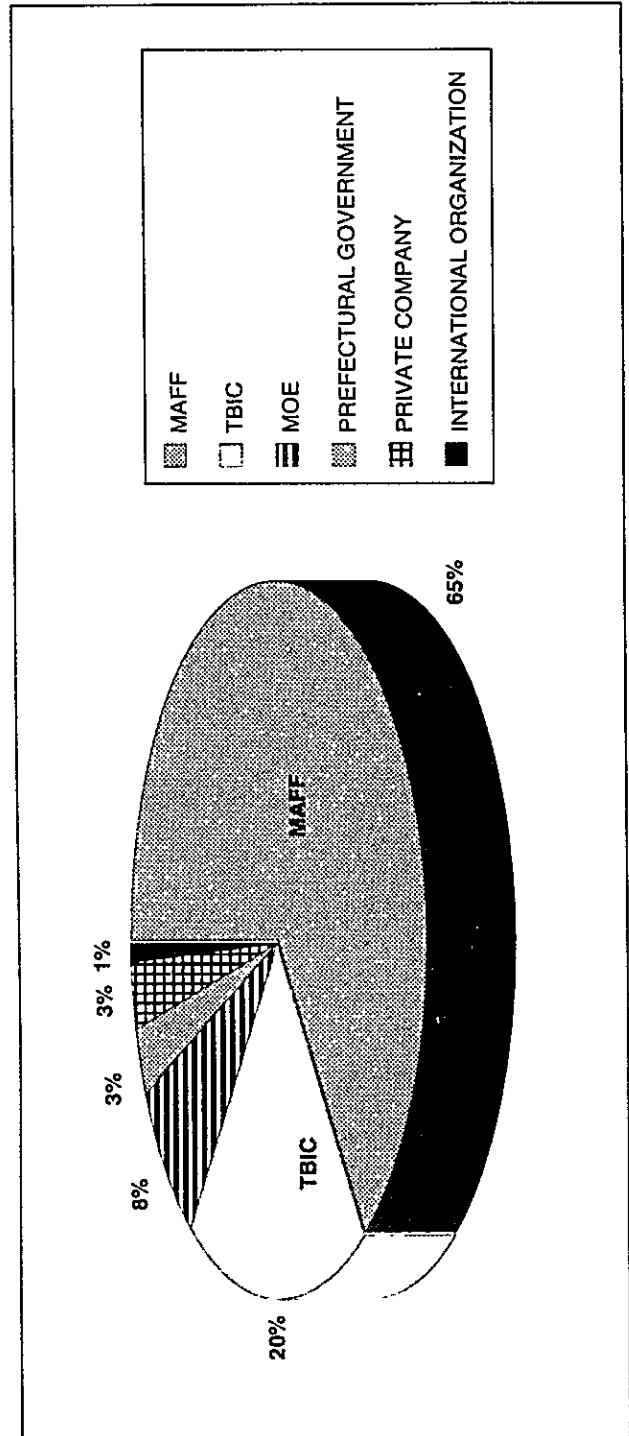


図3-5 Main Recipient Organization for Individual Training (FY1995)

平成7年度 個別研修 主要関係機関

関係機関

関係機関		研修員数		割合
Related Organization		No. of	Participants	Ratio
筑農七	TBIC	39	14.5	
集団	Group Training			
特設・C/P合同	Country Focused /Joint	9	3.3	
	Individual	5	1.9	
他JICA センター (沖縄)	Other JICA Centre (Okinawa)	1	0.4	
農水省	MAFF	175	65.0	
文部省	MOE	21	7.8	
建設省	MOC	1	0.4	
国際機関	International Organization	2	0.7	
都道府県	Prefectural Government	8	3.0	
民間企業	Private Company	8	3.0	
		269	100.0	



## 第4章 資料編

1. 平成7年度見学者等実績
2. 平成7年度筑波国際農業研修センター関連表彰状等授受者
3. 平成7年度筑波国際農業研修センター研修スタッフリスト及び担当業務
4. 平成7年度筑波国際農業研修センター職員リスト及び担当業務
5. 平成7年度JICA農林水産業関係国内委員会の委員委嘱状況
6. 平成7年度筑波国際農業研修センター施設概要
7. 筑波国際農業研修センター集団研修コース変遷系統図（1996年3月31日現在）
8. 平成7年度筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数
9. 筑波国際農業研修センター集団研修コース別・年度別研修員受入れ数（1961～1994年度）
10. 筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数（1961～1994年度）
11. 平成7年度筑波国際農業研修センター個別研修員分野別・受入形態別・国別受入れ実績
12. 平成7年度筑波国際農業研修センター個別研修一覧表

(資料1)

## 平成7年度見学者等実績

来訪日	氏名	国名	役職	背景(1)	背景(2)	合計
95.05.25	地方自治体職員	日本	地方自治体職員等国際協力実務研修	JICA	国総研地方自治体職員等国際協力実務研修	10
95.05.29	脇田 博	日本	JICA東北支部長	JICA	岩手県のセンター誘致、仏語圏に対する稲作協力	1
95.05.30	中岡常務理事 他1名	日本	(財)アジア農業協同組合振興機関	JICA		2
95.06.07	青年招聘研修員 22名 NGO関係者 10名					32
95.06.16	Dr. Symal Kumar SARAR	インド	大蔵省経済局長	JICA	個別一般「国際協力事業紹介」に係るセンター見学	1
95.06.27	大沢 英生 小賀 正樹 水友 紀章	日本 日本 日本	農業開発調査課長代理 農業開発調査課職員 農業開発調査課職員	JICA	C/P個別研修事業に係る意見交換等のため	4
95.07.07	Mr. Sangkala RUSLAN	インドネシア	南スラベシ州 開発計画局 経済	JICA	JOCV「バル県農村生活向上プロジェクト」C/P	1
95.07.20	研修参加者 19名 桑原 氏 若林 佐江子	日本 日本 日本	地方自治体職員等 IFIC専門家研修管理室 IFIC専門家研修管理室	JICA	国総研 地方自治体職員等国際協力実務研修(H7-2)	23
95.07.24	Dr. Cesar Torentino	フィリピン	東南アジア漁業開発センター 養研修・情報部長	JICA	フィリピン水産増殖C/P	1
95.07.28	Ms. R. E. CASTELLANOS de JARQUIN	エルサルヴァド	経済・社会開発企画調整省 対外協力課長	JICA	国際協力事業紹介布施 専門家C/P	1
95.08.09	脇田 博	日本		JICA	アフリカ稲作研修の打ち合わせ	2
95.08.31	研修参加者 16名 永野 恵寿 若林 佐江子	日本 日本 日本	地方自治体職員等 IFIC専門家研修管理室 IFIC専門家研修管理室	JICA	国総研 地方自治体職員等国際協力実務研修(H7-3)	18
95.09.14	農投融研修員5名(準高1) (財)農業開発協会 村尾	トルコ 日本	半乾燥地域農業現地実証調査 C/P	JICA	農業分野における研修 コース紹介	6
95.09.14	Mr. Agung SANTOSA 他	インドネシア 他	農業工学開発センター設備協力	JICA	研修カリキュラムの一環 「平成7年度農業機械管理 コース」	10
95.09.20	Mr D. N. Narasimha RAJU	インド	インド大蔵省経済局 日本の 経済担当	JICA	国際協力事業紹介	1
95.09.28	Ms. Shi Huaqun 他	中国 他	JICA在外事務所 現地職員	JICA	JICA在外事務所現地職員 本邦研修	9
95.11.08	Mr. Reza Bahadory Shokat 他	イラン 他	さとうきび・副産物開発公社 研究部専門研究員 他	JICA	研修カリキュラムの一環 「さとうきび栽培コース」	6
95.11.15	Mr. Tieng Bun Nhasay 他	カンボディア 他	文部・青少年・スポーツ省対 外事務員 他	JICA	研修カリキュラムの一環 「国際協力促進(日本語) コース」	4

来訪日	氏名	国名	役職	背景(1)	背景(2)	合計
95.12.15	Mr. Jiang Xiao-Ping 他	中国	国家科学技術委員会 国際合作司日本処 科長 他	JICA	研修カリキュラムの一環「中国技術協力促進コース」	10
96.03.07	Mr. Fahad S. A. AL-RWIS	サウジアラビア	人事院研修課長、JICA研修事業窓	JICA	平成7年度個別一般研修「国際協力事業紹介」	1
96.03.15	Dr. Peter. G. SINYANGWE	ザンビア	農業省獣医畜産局・局長	JICA		1
95.06.23	鈴田農業高校 高校生	日本		一般	国際協力理解	50
95.06.28	鶴嶺小学校 5年生	日本		一般	国際協力理解	100
95.07.17	鯉淵学園 青年海外協力隊	日本		一般		5
95.07.20	大島拓哉 他	日本	早稲田大学経済学部	一般		6
95.07.26	Mr. Chihinda Muko	ザイール	名古屋大学院生(留学生)	一般	修論を仕上げるため。	1
95.08.10	前橋ユネスコ協会	日本		一般	青少年の国際理解、研修員との交流	130
95.08.23	中国湖北省視察団 HGHF FDG	中国	農業土木・栽培担当官 他	一般	農水省招へい湖北省農業改造技術研修	6
95.09.11	Mr. Francis Glago	ベナン	友情と平和ユネスコクラブ会長	一般	土浦市教育委員会の依頼による	1
95.10.17	中国農業機械化考察団団長 焦 剛	中国	農業部副司長	一般		15
95.10.19	西ミンドロ州市長連盟行政 雨宮 淳 氏(雨宮歯科医) 片岡 寛 氏(つくば市企)	フィリピン 日本 日本	西ミンドロ州知事	一般	フィリピン西ミンドロ州市長連盟行政視察団の見学	12
95.12.15	橋 保安 中国研修員	日本	農林水産省農林水産研修所 農業技術研修部 研修指導官	一般		2
96.02.06	西 和一 細野 安高	日本 日本	群馬県総務部地方課主任 群馬県高崎土地改良事務所 主幹	一般	群馬県の自治体外交の在り方	2
96.03.07	川野 拓郎 大工園 周作	日本 日本	(財)鹿児島県国際交流協会 主幹 〃 総務企	一般		2
95.07.11	農業土木技術者 研修員 同行者 2名	韓国	農業基盤整備担当公務員等	外務省	韓国大使館・農水省実施の海外研修員受け入れ事業	26
95.08.30	Mr. Aman HASSEN	エチオピア	外務省 第二次官 エチオピア大使館	外務省	外務省 中堅指導者招聘	2
95.10.06	Mr. Marcos Geraldo	モザンビーク	外務協力省アジア・オセアニア局長	外務省	国際協力事業紹介	1
95.10.20	外務省 堀江技術協力課長	日本	外務省 技術協力課	外務省		1
95.12.20	Mr. Saleh Idris KEKIA	エリトリア	外務次官	外務省	中堅指導者招へい計画	1
96.01.19	Mr. David Whitefood Steward	南アフリカ	デ・クラーク副大統領府局長	外務省		1

総来訪者数 508

(資料2)

## 平成7年度筑波国際農業研修センター関連表彰状等授受者

### 1. 外務大臣表彰

#### (1) 個人

岩田正利 東京大学名誉教授

#### (2) 団体

株式会社 みかど育種農場 (代表取締役社長 池田直樹)

### 2. 国際協力功労者表彰

#### (1) 個人

阿部登 元筑波国際農業研修センター研修指導者

山田英一 同上

#### (2) 団体

協和種苗株式会社 (代表取締役社長 岸本雅之)

農林水産省 農業工学研究所 (所長 川尻裕一郎)

(資料3)

平成7年度筑波国際農業研修センター研修スタッフリスト及び  
担当業務

(1) 栽培・農業開発班

役 職	氏 名	担当コース名	担 当 業 務	備 考
研修指導者	阿 部 登	稲作関連コース全般	研修計画・研修指導の技術的助言 作物保護分野の講義、実験・実習 及び視察研修等の指導	
◇	天 野 洋 司	◇	研修計画・研修指導の技術的助言 土壌肥料分野の講義、実験・実習 及び視察研修等の指導	
◇	山 田 英 一	野菜関連コース全般	研修計画・研修指導の技術的助言 講義、実験・実習（採種、種子） 及び視察研修等の指導	
研修指導者	清 治 有	米生産	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
◇	山 岸 恭 敬	◇	◇	平成6年4月1日から
◇	藤 井 俊 夫	◇	◇	平成6年12月1日から
◇	小長谷 裕 宝	米生産（仏）	◇	
◇	坂 上 潤 一	◇	◇	平成6年4月1日から
◇	古 谷 隆 司	稲作技術	◇	
◇	井 上 郁 夫	野菜採種	講義、実験・実習（採種栽培）及 び視察研修等の指導	平成6年10月31日まで
◇	浦 山 久	◇	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
◇	小 山 真 一	◇	◇	平成6年4月1日から
◇	佐久間 弘 行	野菜生産、南アフリ カ特設	講義、実験・実習（栽培）及び視 察研修等の指導	平成6年10月16日まで
◇	苗 代 孝 暢	◇	講義、実験・実習（栽培、土壌） 及び視察研修等の指導	平成6年1月1日から
◇	加 藤 康 雄	◇	◇	平成6年2月21日から
◇	奥 田 実 行	野菜生産、野菜採種	◇	平成6年10月1日から
研修監理員	折 田 典 子	米生産（仏）	仏語の通訳、翻訳	

## (2) 農業工学・環境班

役 職	氏 名	担当コース名	担 当 業 務	備 考
研修指導者	小 川 淨 壽	農業機械関連コース	研修計画・研修指導の技術的助言 講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	平成6年12月31日まで
〃	柿 沼 計	〃	〃	平成7年1月1日から
研修指導員	桜 井 文 海	農業機械設計、農業 機械化	講義、実験・実習及び視察研修等 の指導	
〃	時 田 邦 浩	農業機械化、農業機 械設計	〃	
〃	一ノ瀬 藤 雄	農業機械化、農業機 械設計	〃	平成6年5月16日から
〃	海老原 洋 司	灌漑排水、水管理	〃	
〃	佐 藤 勝 正	〃 〃	〃	
〃	土 井 康 弘	〃 〃	〃	



(資料4)

平成7年度筑波国際農業研修センター職員リスト及び担当業務

1. 職員リスト (総括表)

所 属	役 職	氏 名	担 当 業 務
総務課	所 長	山 縣 正 安	所長特命事項 課総括 (6月1日、配属) 課総括 (6月1日、転勤) 課の事務総括 (10月1日、配属) 課の事務総括 (10月1日、転勤)
	特任参事	前 田 忠 夫	
	課 長・参 事	古 賀 重 成	
	課 長・参 事	太 田 光 彦	
	課長代理・参 事	川 上 茂 人	
研 修 室	課長代理・副 参 事	桜 井 英 充	課の事務総括 (10月1日、配属) 課の事務総括 (10月1日、転勤) 会計 施設管理、契約 庶民 室総括 企画調整班総括 研修総合事務 研修事務 (9月17日、海外長期研修) 付属農場管理 栽培・農業開発班総括 (10月24日、配属) 栽培・農業開発班総括 (8月18日、転勤) 栽培・農業開発班総括 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 栽培、農業開発分野の集団・個別研修業務 農業工学・環境班総括 農業工学・環境班総括 (6月5日、配属) 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (4月15日、転勤) 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (1月1日、転勤) 農業工学、環境分野の集団・個別研修業務 (4月21日、配属)
	参 事	加 藤 怜 子	
		大 沼 保	
		佐 藤 末 松	
	室 長 (事務取扱)	山 縣 正 安 (兼)	
	室長代理・参 事	西 村 美 彦	
	副 参 事	北 中 真 人	
		内 島 光 孝	
		飯 田 昭	
	室長代理・参 事	三 浦 喜 美 男	
	室長代理・参 事	中 野 久 雄	
	室長代理・参 事	小 瀬 川 修	
	参 事	江 川 敬 三	
	参 事	中 本 明 男	
	参 事	森 口 加 奈 子	
参 事	田 中 努		
室長代理・参 事	米 山 正 博		
室長代理・参 事	辻 本 壽 之		
参 事	枝 川 孝 男		
参 事	村 竹 儀 昭		
参 事	佐 藤 福 次 郎		
参 事	小 笠 原 誠 作		
参 事	加 藤 憲 一		
参 事	日 原 一 智		
センター付	参 事	千 田 徳 夫	所長特命事項

(資料5)

## 平成7年度JICA農林水産業関係国内委員会の委員委嘱状況

① 水田作・畑作研究国内委員会

所 長 山 縣 正 安

② 野菜研究国内委員会

研修室長代理 小瀬川 修

③ 果樹・特用作物研究国内委員会

研修室長代理 西 村 美 彦

④ 農業機械国内委員会

研修室長代理 米 山 正 博

⑤ アルゼンティン園芸総合試験場国内委員会

所 長 山 縣 正 安

### 国内長期技術研修者（職員）

氏 名	所 属	所 属 研 修 内 容	研 修 期 間	研 修 機 関
西 村 美 彦	研 修 室 長 代 理	熱帯農業の技術移転	平成7年9月11日 から同年12月10日 まで	筑波大学
米 山 正 博	研 修 室 長 代 理	発展途上国の農業機械 に関する研究	平成7年12月1日 から平成8年2月 29日まで	東京農業大学

(資料6)

平成7年度筑波国際農業研修センター施設概要

I. 土地

1. 敷地面積	30,758.75m <sup>2</sup>
(1) 場内敷地	19,542.35m <sup>2</sup>
(2) 場外敷地	11,216.40m <sup>2</sup>
2. 圃場面積	92,405.00m <sup>2</sup>
(1) 水田	38,288.00m <sup>2</sup> (場内2,100.00m <sup>2</sup> ・場外36,188.00m <sup>2</sup> )
(2) 畑	54,117.00m <sup>2</sup> (場内6,300.00m <sup>2</sup> ・場外47,817.00m <sup>2</sup> )
3. 合計	123,163.75m <sup>2</sup>

II. 施設

1. 本館 2,988.53m<sup>2</sup>

階	区 分	面 積	階	区 分	面 積
1 階	1. 所長室	m <sup>2</sup> 30.02	1 階	19. その他の共用部分 計	m <sup>2</sup> 77.61
	2. 事務職員室	297.56			989.88
	総務課	(74.00)	2 階	1. 図書情報室	183.00
	研修室	(223.56)		2. 作物実験室	80.09
	3. 応接・会議室	46.38		3. 組織培養実験室	69.39
	4. 会議室A・B	52.36		4. 園芸実験室	76.78
	5. コピー室	25.27		5. コンピューター実習室	55.74
	6. ロッカー室(男)	21.46		6. 化学分析実験室	146.78
	7. ロッカー室(女)	3.38		7. 病理昆虫実験室	86.25
	8. 倉庫 No1	8.00		8. 研修監理員室	55.20
	9. 倉庫 No2	12.42		9. 機械室 No2	74.32
	10. ロビー	91.00		10. 倉庫 No3	33.12
	11. 機械室 No1	62.10		11. 倉庫 No4	24.15
	12. 守衛室	10.80		12. 湯沸室	2.55
	13. 廊下	73.80		13. 便所(男)	13.50
	14. 湯沸室	2.55		14. 便所(女)	10.80
	15. 自販コーナー	8.10		15. 吹抜及び共用部分 計	77.51
	16. 車庫	142.77		989.18	
17. 便所(男)	13.50				
18. 便所(女)	10.80				

階	区 分	面 積	階	区 分	面 積	
		m <sup>2</sup>			m <sup>2</sup>	
3 階	1. 講 義 室 No 1	57.53	3 階	12. 倉 庫 No 5	27.44	
	2. 〃 No 2	57.53		13. 自販コーナー	2.55	
	3. 〃 No 3	51.49		14. 便 所 (男)	13.50	
	4. 〃 No 4	57.53		15. 便 所 (女)	10.80	
	5. 〃 No 5	51.66		16. オープンバルコニー	218.91	
	6. 〃 No 6	58.74		及び共用部分		
	7. 〃 No 7	51.6		計	864.00	
	8. 講 堂	124.35				
	9. 映 写 室	24.87		屋 上	電氣室及び機械室 No 3	107.57
	10. ホール	27.44			機 械 室 No 4	37.90
	11. 和 室	28.00		計	145.47	

2. 本館付属施設 6,548.73m<sup>2</sup>

(1) 灌溉排水実験棟	1 階	747.00m <sup>2</sup>	(2) 農業機械化実験棟	1 階	783.29m <sup>2</sup>
	2 階	559.85m <sup>2</sup>		2 階	772.23m <sup>2</sup>
	計	1,306.85m <sup>2</sup>		屋上	50.13m <sup>2</sup>
				計	1,605.65m <sup>2</sup>

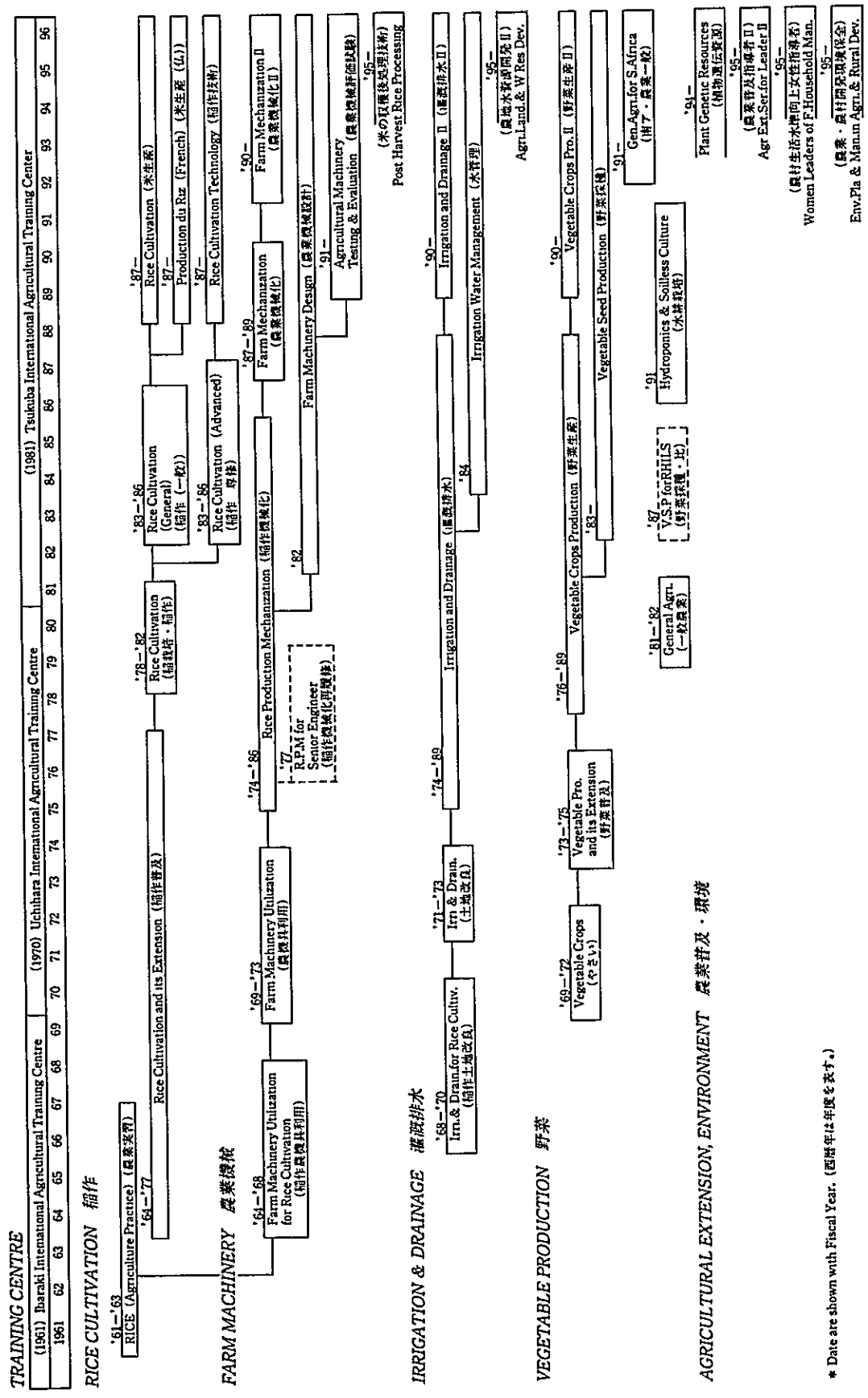
(3) 野菜作業棟	538.00m <sup>2</sup>	(7) 農業機械庫	162.00m <sup>2</sup>
(4) 稲作作業棟	492.00m <sup>2</sup>	(8) 堆肥舎	162.00m <sup>2</sup>
(5) 農業資材棟	108.00m <sup>2</sup>	(9) 温室・網室13棟	2,048.23m <sup>2</sup>
(6) 田植機実験庫	126.00m <sup>2</sup>	(10) [(3)~(9)の計]	3,636.23m <sup>2</sup>

3. 付属農場 1,630.83m<sup>2</sup>

(1) 穀物調整棟	504.02m <sup>2</sup>	(6) 洗車棟	86.23m <sup>2</sup>
(2) 修理棟	142.63m <sup>2</sup>	(7) 材料庫	142.63m <sup>2</sup>
(3) 作業機棟	142.63m <sup>2</sup>	(8) 農場管理棟	185.62m <sup>2</sup>
(4) トラクター庫	142.63m <sup>2</sup>	(9) 網室	170.01m <sup>2</sup>
(5) 屋内実験棟	114.43m <sup>2</sup>		

4. 合 計 11,168.09m<sup>2</sup>

(資料 7) Historical Change of Group Training Courses Conducted by TIATC  
筑波国際農業研修センター集団研修コース変遷系統図 (1995年 3月 31日現在)



\* Date are shown with Fiscal Year. (西暦年は年度を表す。)

(資料 8)

Number & countries of Participants Accepted by Group Training Courses (FY 1995)  
平成7年度筑波国際農業研修センター集団研修コース別・国別研修員受入れ数

Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology	Rice Production	Production du Riz (French)	Farm Mechani- zation	Farm Machinery Design	Irrigation and Drainage	Irrigation Water Management	Vegetable Crops Production	Vegetable Seed Production	Farm Machinery Testing	Plant Genetic Resources	Agricultural Extension Service for Leader II	Agricultural Land and Water Resources Development II	Woman Leaders of Farm Household Development	Agricultural and Rural Development with Environmental Conservation	Post Harvest Rice Processing	TOTAL
Country (国名)	稲作技術	米生産	米生産(仏)	農業機械化	農業機械設計	灌漑排水	水管理	野菜生産	野菜採種	農業機械 試験試験	植物遺伝 資源	農業普及 指導者	農地水資源 開発	農業生活水 向上女性 指導者	農業・農村 開発環境保全	米の収穫後 処理技術	合計
ASIA																	
1 Bangladesh				1								1	1	1		1	5
2 Bhutan																	3
3 Cambodia						1									1		7
4 China																	3
5 India																	9
6 Indonesia																	1
7 Korea																	5
8 Laos																	6
9 Malaysia																	3
10 Mongolia																	3
11 Myanmar																	5
12 Nepal																	7
13 Pakistan						2											15
14 Philippines																	12
15 Sri Lanka									2								13
16 Thailand																	5
17 Viet-Nam																	10
Sub-total	5	7	0	9	6	7	5	5	4	6	4	8	11	10	13	8	108
MIDDLE EAST																	
18 Egypt				2													1
19 Iran																	5
20 Jordan																	1
21 Turkey																	1
Sub-total	1	0	0	4	1	2	1	1	1	1	0	1	2	0	2	1	18
AFRICA																	
22 Botswana																	1
23 Burkina Faso																	1
24 Cameroon																	2
25 Cote d'Ivoire																	4
26 Ethiopia																	2
27 Ghana																	1
28 Guinea equatorial																	1
29 Guinea																	1
30 Kenya																	1
31 Madagascar																	1
32 Malawi																	3
33 Mauritius																	1
34 Morocco																	2
35 Senegal																	1
36 Sierra Leone																	1
37 South Africa						2						2					2
38 Tanzania																	1
39 Zambia																	1
40 Zimbabwe																	1
Sub-total	1	2	6	4	2	4	4	4	2	2	1	5	2	3	3	2	47

Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology	Rice Production	Production du Riz (French)	Farm Mechanization	Farm Machinery Design	Irrigation and Drainage	Irrigation Water Management	Vegetable Crops Production	Vegetable Seed Production	Farm Machinery Testing	Plant Genetic Resources	Agricultural Extension Service for Leader II	Agricultural Land and Water Resources Development II	Women Leaders of Farm Household Development	Agricultural and Rural Development with Environmental Conservation	Post Harvest Rice Processing	TOTAL
Country (国名)	稲作技術	米生産	米生産(仏)	農業機械化	農業機械設計	灌漑排水	水管理	野菜生産	野菜採種	農業機械 評価試験	植物遺伝 資源	農業普及 指導者	農地水資源 開発	農業生活水 向上女性 指導者	農業・農村 環境保全	米の収穫後 処理技術	合計
<b>LATIN AMERICA</b>																	
41 Argentina	1					1				1							3
42 Brazil										1							1
43 Bolivia											1						1
44 Chile															2		4
45 Colombia				1													2
46 Cuba																	2
47 Dominican Rep.																	1
48 Ecuador																	1
49 Guatemala																	1
50 Guyana																	1
51 Haiti																	1
52 Honduras																	2
53 Mexico				1													7
54 Nicaragua																	1
55 Paraguay																	4
56 Panama																	1
57 Peru																	1
58 Uruguay																	1
Sub-total	1	2	0	1	2	4	1	2	3	2	2	3	5	2	4	2	36
<b>OCEANIA</b>																	
59 Fiji																	1
60 Micronesia																	2
61 Papua New Guinea																	1
62 Tuvalu																	5
Sub-total	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	5
<b>EUROPE</b>																	
63 Albania																	1
GRAND TOTAL (63 Countries)	8	11	6	18	11	17	11	15	11	11	7	18	20	16	22	13	215

(資料9)

Number of Participants Accepted by Group Training Course in 34 Years (FY1961~1994)  
筑波国際農業研修センター集団研修コース別・年度別研修員受入れ数 (1961~1994年度)

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

Training Course (Course)	Rice Cultivation Technology ('83-'94)	Rice Production ('61-'94)	Production du Riz ('87-'94)	Farm Mechanization ('64-'94)	Farm Machinery Design ('82-'94)	Irrigation and Drainage ('68-'94)	Irrigation Water Management ('84-'94)	Vegetable Crops Production ('69-'94)	Vegetable Seed Production ('83-'94)	Agri. Mach. Testing & Evaluation ('90-'94)	General Agr.	Hydropon. Soilless Culture ('90-'91)	Total
Fiscal Year (Year)	稲作技術 (稲作)	米生産 (米)	米生産 (仏)	農業機械化 (農機)	農機設計 (農機)	灌漑排水 (灌漑)	水管理 (水)	野菜採種 (野菜)	野菜採種 (野菜)	農機評価 (農機)	農業一般	無土栽培 (無土)	合計
'61		19											19
'62		18											18
'63		25											25
'64		17		7									24
'65		13		11									24
'66		13		11									24
'67		13		9									22
'68		7		11		10							28
'69		13		13		11		13					50
'70		11		10		13		13					42
'71		11		12		10		11					44
'72		11		12		9		15					47
'73		10		11		5		13					39
'74		10		10		11, 8		12					51
'75 (a)		9		10		9, 9		10					47
'75 (b)		12		11		12		11					47
'76		12		11		10		11					44
'77		12		11		12		13					54
'78		11		12		11		13					47
'79		13		13		11		10					47
Sub-Total ①		(260)		(191)		(146)		(146)					(743)
'80		14		13		13		13					53
'81		11		11		12		12			9		55
'82		14		12		14		13			11		74
'83	6	12		12		13		12	12				77
'84	9	12		10		13	8	11	10				83
'85	8	12		12		12	9	14	10				87
'86	10	12		11		13	11	11	11				88
'87	8	11		10		13	* 2)	11	* 3) 10, 12				94
'88	9	11		12		14	8	11	12				96
'89	9	11		12		14	12	11	12				100
'90	8	9		10		12	12	10	9				96
'91	10	7		12		19	9	14	13		* 4) 4	4	123
'92	9	9		14		18	11	11	11		8		120
'93	9	10		12		18	11	10	12		7		120
'94	8	9		15		19	12	12	12		8		120
Sub-Total ②	(103)	(164)	(55)	(178)	(137)	(217)	(103)	(177)	(145)	(59)	(47)	(8)	(1,394)
Total	103	424	55	369	137	363	103	323	146	59	47	8	2,137

\* 1) In FY 1975 the training course was held twice; the first was started in April '75, and the second in March '76. 1975年度は、1975年4月に研修コースが開始された後、次回は1976年3月に開始された為、2回の実施となった。  
 \* 2) In 1987 the training course was started in February, that was included as a training course of F. Y. '86, and in 1988 it was started in April, that was included as F. Y. '88. 1987年度は2月から4月に実施された為、87年度は継続のみとなった。  
 \* 3) Ten (10) Indicates the number of Participants attended the special training course for Philippines. 左の数字は、フィリピン・特設野菜採種コースに参加した研修員数を表す。  
 \* 4) This is the number of Participants attended the special training course for Republic of South Africa. 南ア・農業一般(野菜)コースに参加した研修員数を表す。  
 \* 5) In F. Y. 1974 and 1975 the training course was held twice a year. 左の数字は前期コースを、右の数字は後期コースを、それぞれ表す。  
 \* 6) Six (6) Indicates the number of Participants attended the special training course for senior engineers. 左の数字は、農業機械再研修コースに参加した研修員数を表す。  
 \* 7) This is the number of Participants attended the training course in Plant Genetic Resources. この数字は、植物遺伝資源コースに参加中の研修員数を表す。



(資料10)

Number & Countries of Participants Accepted by Group Training Courses (FY1961-1994)  
 筑波国際農業研修センター集団研修員受け入れ数(1961-1994年度)

Tsukuba International Agricultural Training Centre (TIATC), JICA

Training Course (コース名)	Rice Cultivation Technology ('84-'94)	Rice Production ('61-'94)	Production du Riz (French) ( '88-'94)	Farm Mechani- zation ( '64-'94)	Farm Machinery Design ( '63-'94)	Irrigation and Drainage ( '68-'94)	Irrigation Water Management ( '85-'94)	Vegetable Crops Production ( '69-'94)	Vegetable Seed Production ( '84-'94)	Farm Machinery Testing ( '90-'94)	Plant Genetic Resources ( '94-)	Hydroponics & Soilless Culture ( '90-'94)	General Agriculture ( '81-'82) ( '91-'94)	TOTAL
Country (国名)	稲作(専修) 稲作技術	農業者型 稲作普及 稲作(一般) 米生産	米生産 (仏)	稲作機械化 農具利用 農業機械化	農業機械設計	国土改良 土地改良 灌漑排水	水管理	野菜 野菜普及 野菜生産	野菜採種 (含む、イリ ビシ、種子 生産)	農業機械 評価試験	植物遺伝 資源	無土栽培	農業一般 附7付設	合計
ASIA	7	8		6	7	10	3	17	11	1			2	72
1 Bangladesh	7	8		6	7	10	3	17	11	1			2	72
2 Bhutan		2		2	1	1	1	3					3	21
3 Brunei		1		5	4	4		2						20
4 Cambodia		8	1	5	9	2	1	3	6	4		1		42
5 China		2		5	9	2	1	3	6	4		1		42
6 Hong Kong				15	4	9		6	1	5				70
7 India	4	25		11	17	9	4	18	5	5		3		165
8 Indonesia	9	52		4	17	33	4	17	5	10				177
9 Korea	3	1		3	4	9		7		1				35
10 Laos	9	1		8	7	9		7		1				35
11 Malaysia	6	24		24	2	12	7	8	1	5		1		90
12 Maldives				1	2	2		2		5			1	4
13 Mongolia				1				7	4	1				14
14 Myanmar	2	16		13	2	10	5	16	4	1			1	64
15 Nepal	1	15		9	2	11		3	3	2			2	60
16 Pakistan	7	8		9	6	10	3	5	2	2				52
17 Philippines	11	33		34	13	39	14	3	21	4			4	196
18 Sri Lanka	1	17		20	7	25	6	18	5	4			4	107
19 Thailand	11	32		29	20	20	9	16	9	5		1		153
20 Viet-Nam	1	7		1	1	1		2	1	1				6
Sub-total	68	261	1	231	99	196	53	158	71	42	2	6	13	1201
MIDDLE EAST														
21 Afghanistan		6		9		2		7						21
22 Bahrain										1				1
23 Egypt		11		15	5	13	9	11	4	5				82
24 Iran		9		10	5	16		4	1	1				49
25 Iraq		2		2	5	5		4	2	1				15
26 Jordan						5	1	9	2					12
27 Saudi Arabia					1				2					2
28 Sudan		11		8	1	6	3	2	2					32
29 Syria						4	3	2	1					10
30 Tunisia						1		1	1					2
31 Turkey				2	7	2		1	1					11
32 Yemen						1								1
Sub-total	12	39	0	46	18	49	16	39	14	6	1	1	0	241
AFRICA														
33 Benin			2	1										3
34 Botswana		1												1
35 Burkina Faso			1						1					2
36 Burundi			2											2
37 Cameroon		2												2
38 Central Africa						1								1
39 Cote d'Ivoire			9	3	3					1				17
40 Equat. Guinea			1											1
41 Ethiopia				2		8		1						15
42 Gabon		3		2		1	4							10
43 Gambia		1		2		1								4



(資料11)

## 平成7年度筑波国際農業研修センター個別研修員分野別・受入形態別・国別受入実績

分野・受入形態 国名	Field of Training 研修分野						Type of Award 受入形態					TOTAL
	農業一般 Agriculture General	農業土木 Agriculture Engineering	農産加工 Agric. Products Processing	養蚕 Sericulture	農業機械 Farm Machinery	食糧増産援助 Aid for Increased Food Supply	C/P Counterpart	個別一般 Plain Individual	国別特設 Country Focused Group Course	国際機関 International Organization	東欧支援 Support for East Europe	
<b>ASIA</b>												
1 Bangladesh	9						9					9
2 Bhutan		2					2					2
3 Cambodia	8	1				2	5	1	5			11
4 China	5	4	4				13					13
5 India				5			5					5
6 Indonesia	15	7			1		23					23
7 Korea	2						2					2
8 Laos	3	2					5					5
9 Mongolia	1	1					2					2
10 Myanmar		4					4					4
11 Nepal	5	1					6					6
12 Pakistan	5						5					5
13 Philippines	18	5		1			24					24
14 Sri Lanka	8	2					10					10
15 Thailand	6	11					17					17
16 Viet-Nam	2						2					2
Sub-total	87	40	4	6	1	2	134	1	5	0	0	140
<b>MIDDLE EAST</b>												
17 Egypt	1	2			3		6					6
18 Iran	1	1			1		3					3
19 Oman	1						1					1
20 Syria	1						1					1
21 Tunisia		2					2					2
22 Turkey		2					2					2
23 Morocco	1	1					1					1
24 U. A. E.		1					1					1
Sub-total	4	9	0	0	4	0	17	0	0	0	0	17
<b>AFRICA</b>												
25 Cote d'Ivoire					4		4					4
26 Ethiopia	1						1					1
27 Ghana		3					3					3
28 Kenya	6	1			1		8					8
29 Malawi	1						1					1
30 Senegal		2					1	1				2
31 South Africa	18						6		18			18
32 Tanzania	6						6					6
33 Zimbabwe		2					2					2
Sub-total	32	8	0	0	5	0	26	1	0	18	0	45
<b>LATIN AMERICA</b>												
34 Argentina	3						3					3
35 Bolivia						1	1					1
36 Brazil	8						8					8
37 Chile	6						6					6
38 Colombia	1	3					4					4
39 Dominican Rep.	4	2					6					6
40 El Salvador	1	1					1					1
41 Honduras		5					5					5
42 Mexico	4	4					8					8
43 Paraguay	10	3				1	13	1				14
44 Peru	1					1	1	1				2
45 Uruguay	5						5					5
Sub-total	42	18	0	0	0	3	61	2	0	0	0	63
<b>EUROPE</b>												
46 Albania	1										1	1
47 Hungary	1										1	1
48 Romania		2									2	2
Sub-total	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
<b>GRAND TOTAL</b> 48 (Countries)	167	77	4	6	10	5	238	4	5	18	4	269

(資料12)

平成7年度筑波国際農業研修センター個別研修一覧表

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
アラブ首長国連	アルダイード地域農業地下水資源開発計画	地下水灌漑計画	Mohamed Mustafa Mohamed ALI	95.09.05 ～95.10.12	農林水産省
アルゼンティン	植物ウイルス研究計画	植物病理研究所運営管理	Sergio Fernando NOME Huespe	95.08.20 ～95.09.06	農業研究センターウイルス病防除研究室
アルゼンティン	植物ウイルス研究計画	植物病理	Luis Rogerio CONCI	95.11.20 ～96.03.03	農林水産省農業研究センター
アルゼンティン	植物ウイルス研究計画	植物ウイルスの同定	Patricia Elsa RODRIGUEZ PARDINA	96.03.04 ～96.07.07	農林水産省九州農業試験場
アルバニア	アルバニア個別一般・民間技能者研修	集/野菜採種	Mevlud HALLIDRI	96.02.07 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
イラン	イランカスピ海沿岸地域農業開発計画	農業事情視察	GHOLAM Ali Najafi	95.07.10 ～95.07.30	農林水産省
イラン	イランカスピ海沿岸地域農業開発計画	灌漑排水	HOSSEIN Latifi	96.02.12 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
イラン	イランカスピ海沿岸地域農業開発計画	農業機械化	Abdolreza Aziz JALALY	96.02.26 ～96.11.15	筑波国際農業研修センター
インド	インド二化性養蚕技術開発計画	二化性蚕品種の育成	NAIR Suresh Kumar	95.05.11 ～95.12.28	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
インド	インド二化性養蚕技術開発計画	催育と稚蚕飼育技術	MEENAL Alagappan	95.05.11 ～95.12.10	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
インド	インド二化性養蚕技術開発計画	製糸及び再繰技術	Subhas Venkappa NAIK	95.05.08 ～95.11.07	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
インド	インド二化性養蚕技術開発計画	桑の栽培と収穫	SYED Abdul Aqueel	95.05.08 ～95.11.21	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
インド	インド二化性養蚕技術開発計画	新型微粒子病微生物の識別と伝染機構	KETHIREDDY V. V. A. Kumari	95.08.29 ～96.02.27	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
インドネシア	徳本 清	農業機械化研究開発	Buhari GULTOM	95.04.02 ～95.04.21	農林水産省農業研究センター
インドネシア	望月由三	地域開発計画	Achmad Indrawan SOELAEMAN	95.07.25 ～95.08.23	農林水産省
インドネシア	インドネシア農水産業統計技術改善事業	農業統計行政	Ato SUPRAPTO	95.04.03 ～95.04.13	農林水産省
インドネシア	インドネシア灌漑排水技術改善計画	修復・更新	Bambang SUGIARTO	96.01.21 ～96.02.14	農林水産省
インドネシア	インドネシア灌漑排水技術改善計画	維持・管理	Danang BASKORO	96.01.21 ～96.02.14	農林水産省

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
インドネシア	灌漑排水技術改善計画	維持・管理	SUBARI	95.07.02 ～95.07.28	農林水産省
インドネシア	灌漑排水技術改善計画	維持・管理	SUBARI, Be	95.07.02 ～95.07.28	農林水産省
インドネシア	灌漑排水技術改善計画	維持・管理	Adolf Tommy Mullatua SITOMPUL	95.07.02 ～95.07.28	農林水産省
インドネシア	関谷 剛個別派遣専門家	水理模型実験	Agung SABUR	95.08.21 ～95.09.16	農林水産省
インドネシア	山崎忍	大豆有粒種子生産技術	JAMALUDDIN	96.01.16 ～96.01.26	北海道立植物遺伝資源センター
インドネシア	種子馬鈴薯増殖・研修計画	検査技術	WAWAN Suwandi	95.08.02 ～95.10.19	横浜植物防疫所
インドネシア	種子馬鈴薯増殖・研修計画	種子馬鈴薯栽培	Undang SUWANDI	95.08.02 ～95.10.04	農林水産省種苗管理センター
インドネシア	種子馬鈴薯増殖・研修計画	種苗システム	SUHARYONO	95.11.12 ～95.12.03	農林水産省種苗管理センター
インドネシア	種子馬鈴薯増殖・研修計画	種苗システム	Sri Lestari UTAMI	96.03.17 ～96.03.30	農林水産省横浜植物防疫所
インドネシア	松嶋隆司	灌漑用水管理	Rapial ZAINUDDIN	95.11.20 ～95.12.08	農林水産省
インドネシア	大友哲也	食用作物生産開発政策	Arintadisastra SOEMITRO	96.01.16 ～96.01.26	農林水産省統計情報部
インドネシア	東南スラウェシ州農業総合開発計画	農業農村総合開発	Chairil Anwar RASAHAN	95.07.24 ～95.07.26	農林水産省
インドネシア	東南スラウェシ州農業総合開発計画	永年作物栽培	SOEWONDO	95.09.17 ～95.10.07	農用地整備公団
インドネシア	東南スラウェシ州農業総合開発計画	地域開発計画	H. BUHARI	95.06.25 ～95.07.15	農林水産省
インドネシア	東南スラウェシ州農業総合開発計画	米生産	Rustam SUPENDY	96.02.26 ～96.10.25	筑波国際農業センター
インドネシア	農水産業統計技術改善計画	食用作物統計	Suroto ADI	95.08.21 ～95.09.15	農林水産省統計情報部
インドネシア	農水産業統計技術改善計画	作物面積統計	Hilma MAIZIR	95.08.21 ～95.09.12	農林水産省統計情報部
インドネシア	灌漑排水技術改善計画	調査・設計	Adi Pramudyo DJOJODINOTO	95.08.20 ～95.09.13	農林水産省農業工学研究所
ヴェトナム	カンター大学農学部改善計画	大学教育（農業経済）	LE Canh Dung	96.01.11 ～96.03.31	東京農工大学（文部省）
ヴェトナム	カンター大学農学部改善計画	大学教育（畜産）	TRAN Thi Phan	96.01.11 ～96.03.31	東京農工大学（文部省）

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
ウルグアイ	果樹保護技術改善計画	農業研究行政（視察）	Cesar Enrique CERONI MARTINEZ	96.02.12 ～96.02.27	農林水産省果樹試験場
ウルグアイ	果樹保護技術改善計画	温州ミカンの樹体管理の実際	Alvaro Ricardo OTERO CAMA	96.03.26 ～99.07.31	農林水産省果樹試験場
ウルグアイ	果樹保護技術改善計画	カンキツウイルスの検定と無毒化プログラム	Diego Cezar MAESO TOZZI	96.02.26 ～96.06.05	農林水産省果樹試験場
ウルグアイ	果樹保護技術改善計画	害虫及び天敵の生態学的研究手法	Jose Hermes BUENAHORA ACOSTA	96.03.26 ～96.07.31	農林水産省果樹試験場
ウルグアイ	果樹保護技術改善計画	農業研究行政（視察）	Eduardo Jose INDARTE GAVIRONDO	96.02.12 ～96.02.27	農林水産省果樹試験場
エジプト	エジプト米作機械化	機械化稲作	Mahmoud El-Said Mohamed EL-IRAQI	96.03.04 ～96.11.15	筑波国際農業研修センター
エジプト	エジプト米作機械化	修理技術（視察研修）	El-Gindy Abdel Ghany MOHAMED	96.03.31 ～96.04.14	筑波国際農業研修センター
エジプト	オモウム農村地域排水改良計画	排水改良計画	Rezk Hassan MENSRAWY	95.12.03 ～95.12.21	農林水産省
エジプト	バハルヨセフ地区灌漑整備計画	灌漑施設管理	Nabil Fawzi NASHID	95.11.27 ～95.12.21	農林水産省
エジプト	江上博司	灌漑用テレメータシステム	Amr Maher Hassan FAHMY	95.08.14 ～95.11.22	㈱デジタル無線通信技術（アフリカ諸国）
エジプト	石川利憲	稲収穫技術	Magdy Ahmed BAIOMY	95.11.13 ～95.12.23	クボタ(株)東京本社農業研究センター生物系特定産業技術研究推進機構 農業機械クボタ(株)東京本社
エチオピア	ベッチョ平原農業開発	農業開発	Dereje WAKO	95.10.14 ～95.11.11	日本工営(株)
エル・サルヴァ	ヒボア川流域農業総合開発計画	灌漑排水	Ramon GARCIA VASQUEZ	96.03.31 ～96.04.28	農林水産省 構造改善局農林水産省
オマーン	ネジド地方農業開発計画フェーズ2	栽培研究・畑地利用	Ahmed Bakheet Salem AL-SHANFARI	95.10.02 ～95.11.17	農林水産省
ガーナ	灌漑農業開発（ミニプロ）	稲作	Seth Kwaku DJOKOTO	96.02.26 ～96.10.25	筑波国際農業研修センター
ガーナ	既存灌漑施設改修計画	灌漑計画	Osei George	96.01.25 ～96.02.22	農林水産省
ガーナ	既存灌漑施設改修計画	農業一般	FORSON Samuel Kobina	96.01.25 ～96.02.22	農林水産省
カンボディア	カンボディア個別専門家（三角協力・守屋 暢司）	農村開発	NGY Chanphal	95.09.25 ～95.10.14	農林水産省

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
カンボディア	カンボディア個別専門家 (三角協力・守屋 暢司)	農村開発	PEOU Yada	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省
カンボディア	個別一般4	河川管理と灌漑	SIN Niny	96.03.25 ～96.04.04	農林水産省 構造改善局
カンボディア	食糧増産援助	食糧増産援助/施肥技術の改善	SOUTH Som Boun	96.02.21 ～96.03.07	筑波国際農業センター (食糧増産援助カウンターパート合同研修)
カンボディア	食糧増産援助	食糧増産援助/病虫害防除	BUNTUON Simona	95.08.08 ～95.09.27	筑波国際農業センター (食糧増産援助カウンターパート合同研修)
カンボディア	川合尚	水管理制度	SE Samouth	95.08.28 ～95.09.15	農林水産省
カンボディア	農村開発	カンボディア農村開発	TEP Sophat	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省 筑波国際農業研修センター
カンボディア	農村開発	カンボディア農村開発	KONG Sakhan	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省 筑波国際農業研修センター
カンボディア	農村開発	カンボディア農村開発	BUN Chan Van Nak	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省 筑波国際農業研修センター
カンボディア	農村開発	カンボディア農村開発	E SARUN	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省 筑波国際農業研修センター
カンボディア	農村開発	カンボディア農村開発	SOK Sitheng	95.09.25 ～95.10.24	農林水産省 筑波国際農業研修センター
ケニア	ケニアジョモ・ケニヤック 農工大学 (学士課程)	花き園芸	Jacinta Wariara KARIUKI	96.03.04 ～96.12.04	山口大学
ケニア	ケニア農村生活改善のための女性の技術向上 (第二国研修)	農家生活水準向上	Joan Ayieta MUGAMBI	95.08.15 ～95.10.28	農村漁村女性・生活活動支援協会
ケニア	ジョモケニヤック農工大 (学士課程)	農業機械	Joseph Thingithu MAILUTHA	96.01.08 ～96.06.29	大阪府立大学農学部
ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	米生産実習	Evans Gakuya MUNENE	96.03.04 ～96.11.20	山形県立農業試験場
ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	水稻育種	Gladys Mawero WABUKE	95.07.31 ～95.10.31	農水省東北農業試験場
ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	青果物流通	Zaituni Issa KIOKO	95.09.04 ～95.11.22	大阪市中央卸売市場大阪国際交流センター
ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	灌漑事業視察	Cecilia Njoki KARIITHI	95.07.23 ～95.08.13	農林水産省
ケニア	ムエア灌漑農業開発計画	土壌分析	Raymond Eston NJAGI	95.06.27 ～95.12.01	農林水産省東北農業試験場
コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	農業機械普及事業 (機械経営計画)		96.03.31 ～96.04.24	筑波国際農業研修センター
コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	農業機械化		96.03.31 ～96.05.23	筑波国際農業研修センター

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	米生産（稲作栽培）	YAPO YAPO Jean-paul	96.02.26 ～96.10.25	筑波国際農業研修センター
コートジボアール	灌漑稲作機械訓練計画	農業機械管理	DOGO Kouau Michel	95.10.10 ～95.11.25	ヤンマー農機
コロンビア	傾斜地域灌漑農業開発	土地改良事業	Jorge Luis BUELVAS HOYOS	95.10.10 ～95.11.01	筑波国際農業研修センター
コロンビア	傾斜地域灌漑農業開発	農地保全	Rafael Antonio GONZALEZ QUIROGA	95.09.19 ～95.12.09	農林水産省
コロンビア	傾斜地域灌漑農業開発	研修管理	Mercedes USECHE CESPEDES	95.07.24 ～95.08.13	国際協力事業団
コロンビア	傾斜地域灌漑農業開発	栽培技術	Juan ARROYO Romero	95.07.11 ～95.08.20	農林水産省東京中央卸売市場 東京農業大学タキイ種苗(株)
シリア	シリア大沼専門家	農業普及	Elias KHOULI	95.08.22 ～95.09.15	全国農業改良普及協会(社) 神奈川農政農政部 農業技術課国際耕種株式会社
ジンバブエ	ムニャティ川下流域農業開発計画	灌漑排水	MARE Albert	95.09.17 ～95.10.12	農林水産省
ジンバブエ	ムニャティ川下流域農業開発計画	農業開発	David MFOTE	95.09.17 ～95.10.12	農林水産省
スリ・ランカ	ガンバハ農業普及改善	農業普及方法	Liyana Mudiyanselage SOMAWARDAN	95.05.23 ～95.08.06	農林水産省
スリ・ランカ	ガンバハ農業普及改善	栽培（野菜）	K. W. A. S. WICK RAMATILAKE	95.08.28 ～95.11.17	京都府
スリ・ランカ	ガンバハ農業普及改善	栽培（その他作物）	JAYAKODY ARACHCHIGE Sumanasiri	95.10.04 ～95.12.21	愛知県農業水産部
スリ・ランカ	ガンバハ農業普及改善計画	水管理	WIJEKOON MUDIYANSELA GE Thilakaratne	95.07.24 ～95.11.03	鳥取大学
スリ・ランカ	国立植物検疫所計画	植物ウイルス病学	Welgamage Gamani Santhakumara	95.12.13 ～96.02.06	横浜植物防疫所
スリ・ランカ	国立植物検疫所計画	植物寄生性線虫同定	Kurukulasuriy a George Ignatius FERNANDO	95.11.14 ～96.02.04	横浜植物防疫所
スリ・ランカ	国立植物検疫所計画	病原微生物学	N. M. L. Bandara HETTIMULLA	96.03.05 ～96.04.28	横浜植物防疫所



国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
スリ・ランカ	国立植物検疫所計画	検疫処理技術	Clement Harischandra IDDAGODA	95.11.30 ～96.02.11	横浜植物防疫所
スリ・ランカ	植物遺伝資源センター計画 F/U	イネ病虫害抵抗性の評価	Bangamuwage Dharmadasa PATHINAYAKE	96.03.26 ～96.07.28	九州農業試験場作物開発部
スリ・ランカ	南部灌漑排水システムリ ハビリ計画	灌漑施設維持管理	Jegathambikai AMARAKOON	95.05.09 ～95.06.01	農林水産省
セネガル	セネガル個別一般	灌漑排水	GUEYE Mossogui	96.03.19 ～96.04.20	農林水産省
セネガル	デビ地区灌漑改修計画	水管理	Oumar DIA	95.05.08 ～95.11.02	筑波国際農業センター（水管 理コース）
タイ	カセサート大学農業普 及・機械化計画（A/C）	農業普及技術	Kitti SIMSIRIVONG	95.06.08 ～95.07.04	農業情報国際交流協会
タイ	タイチェンマイ大学植物 バイオテクノロジー研究 計画	プロジェクト運営管理	Pongsak ANGKASITH	95.11.19 ～95.12.01	三重大学生物資源学部
タイ	タイ南部農地復旧保全計 画調査	農地保全	Sutham PALADSONGKRAM	95.06.13 ～95.07.15	農林水産
タイ	チェンマイ大学植物バイ オテクノロジー研究計画	放射線育種	Adisorn KRASAECHAI	95.10.17 ～95.12.26	三重大学生物資源学部
タイ	チェンマイ大学植物バイ オテクノロジー研究計画	栄養ストレスと圃場馴化	Choochad SANTASUP		三重大学生物資源学部
タイ	チェンマイ大学植物バイ オテクノロジー研究計画	植物バイオテクノロジー （視察）	Pittaya SRUAMSIRI	95.11.01 ～95.12.02	三重大学生物資源学部 香川大学農学部
タイ	チェンマイ大学植物バイ オテクノロジー研究計画	植物組織培養	Arawan SHUTSRIRUNG	96.03.25 ～96.09.02	三重大学生物資源学部
タイ	モンズアイルアン川流域 農業水資源開発計画	環境に配慮した農業開発	Traibhun MEKJAROON	95.10.10 ～95.11.01	農林水産省
タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全計画（視察）	Upatham POTISUWAN	95.12.03 ～95.12.14	農林水産省
タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全計画（視察）	Dechar SUMRIT	95.07.16 ～95.07.27	農林水産省
タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全計画（視察）	Chairat SENEEWONGSE	95.07.16 ～95.07.27	農林水産省
タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全計画（視察）	Ard SOMRANG	95.12.03 ～95.12.14	農林水産省
タイ	東部タイ農地保全計画	農地保全計画（視察）	Phongpiya PIYASIRANANDA	95.07.16 ～95.07.27	農林水産省
タイ	灌漑技術センター計画 F/U	水管理	Virat KHAO- UPPATUM	95.11.14 ～95.11.28	農林水産省農業工学研究所 水資源開発公団

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
タイ	灌漑技術センター計画 F/U	水配分計画	Apichai WATHANAYOM NAPORN	96.03.25 ～96.05.18	九州大学農学部農業工学科 水資源開発公団 農林水産省農業工学研究所 文部省
タイ	灌漑技術センター計画 F/U	適正施設操作手法	Anusak MUJJALINVIMUTI	95.10.16 ～95.11.26	農林水産省農業工学研究所 水資源開発公団
タイ	灌漑技術センター計画 F/U	研修技術	Orathai KRISANAYANYONG	96.03.25 ～96.04.25	農林水産省農業工学研究所
タンザニア	キリマンジャロ農業技術 者訓練センター	稲作	Adam Gabriel PYUZA	96.02.26 ～96.10.25	筑波国際農業研修センター
タンザニア	キリマンジャロ農業技術 者訓練センター	水管理（灌漑排水）	MAREGESI, Geoffrey	96.02.12 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
タンザニア	キリマンジャロ農業技術 者訓練センター	農業機械化	MZIRAY Enea David	96.02.26 ～96.11.15	筑波国際農業研修センター
タンザニア	タンザニアキリマンジャ ロ農業訓練センター計画	農業普及	Richard James SHAYO	95.05.09 ～95.08.13	全国農業改良普及協会
タンザニア	ミオンボウッドランド農 業生態総合研究 (研究協力)	農村社会学	Deogratias Frederick RUTATORA	95.08.28 ～95.12.20	京都大学アフリカ地域研究セ ンター 京都大学農学部 福井県立大学経済学部
タンザニア	大芝博明	野菜栽培技術・農業普及	Zuberi Shaban GEMBE	96.02.26 ～96.09.20	筑波国際農業研修センター (野菜生産 I I コース)
チリ	チリ植物遺伝資源の管理 と利用事前調査 (第三国集団研修)	遺伝資源管理・評価	Angela Erna PEZOA Cancino	95.10.10 ～95.12.13	農林水産省 野菜・茶業試験 場 野菜育種部 農業生物資源研究所 北海道立植物遺伝資源センター
チリ	チリ植物遺伝資源計画	検疫・植物病理	Alicia BRUNA	95.06.04 ～95.07.14	農林水産省 野菜・茶業試験場
チリ	チリ植物遺伝資源計画	遺伝資源管理	Pedro LEON LOBOS	95.05.28 ～95.09.26	農林水産省農業生物資源研究所
チリ	チリ植物遺伝資源計画	野菜栽培・育種	Leonardo David ROJAS Parra	95.10.03 ～95.12.20	農林水産省 野菜・茶業試験場
チリ	チリ植物遺伝資源計画	果樹栽培・育種	Antonio Danilo LOBATO Salinas	95.08.24 ～95.11.08	農林水産省果樹試験場安芸津 支場
チリ	チリ植物遺伝資源計画 (F/U)	果樹遺伝資源	Andrea Cecilia Pia TORRES Pinto	95.09.12 ～95.11.26	農林水産省果樹試験場
チュニジア	南部オアシス地域灌漑施 設整備計画	灌漑排水	Ridha ABDALLAH	96.01.10 ～96.02.04	農林水産省 三祐コンサルタンツ(株) 日本工営(株)
チュニジア	南部オアシス地域灌漑施 設整備計画	灌漑排水	Mohamed Kamel BELHAJ JRAD	96.01.10 ～96.02.04	農林水産省 三祐コンサルタンツ(株) 日本工営(株)

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
ドミニカ共和国	コンスタンサ畑地灌漑計画	水管理	Jose Rafael MEJIA TORRES	95.07.10 ～95.08.02	農林水産省
ドミニカ共和国	リモン・デル・ジュナ地域農業開発計画	灌漑排水	Valentin CORDERO LORA	95.07.10 ～95.08.02	P. C. I. (株)
ドミニカ共和国	果樹園芸 (ミニプロ)	果樹栽培	Angel Rosendo AYALA LABOUR	95.08.15 ～95.12.10	静岡県柑橘試験場
ドミニカ共和国	胡椒開発計画フェーズ2	作物保護	Juan de Dios MOYA FRANCO	95.06.10 ～95.11.29	農業環境技術研究所
ドミニカ共和国	胡椒開発計画フェーズ2	農業開発	Gil Manuel FERNANDEZ ABUD	95.11.27 ～95.12.17	農林水産省 東京農業大学 タキイ種苗(株)
ドミニカ共和国	胡椒開発計画フェーズ2	実証訓練	Manuel de Jesus LORA ALVAREZ	95.11.08 ～95.12.17	東京農業大学
トルコ	クチュク・メンデレス川流域灌漑農業開発計画	灌漑排水	Ali Fuat KUCUKKARA KURT	95.11.07 ～95.12.03	農林水産省
トルコ	クチュク・メンデレス川流域灌漑農業開発計画	灌漑排水	Erbil ALPARSLAN	95.11.07 ～95.12.03	農林水産省
ネパール	ネパール園芸開発計画フェーズ2	果樹園芸視察	Yadab Deb PANTA	96.02.19 ～96.03.03	農林水産省果樹試験場
ネパール	ネパール個別専門家	灌漑計画	Som Nath POUDEL	96.03.03 ～96.03.16	筑波国際農業研修センター 農林水産省農業工学研究所
ネパール	園芸開発計画フェーズ2	害虫防除	Shashi ADHIKARY	96.03.26 ～96.06.30	農林水産省果樹試験場
ネパール	園芸開発計画フェーズ2	落葉果樹普及	Utshab K. C.	95.09.04 ～95.12.17	茨城県農業総合センター園芸研究所
ネパール	園芸開発計画フェーズ2	柑橘普及	Dhalak Bahadur THAPA	95.10.24 ～95.12.24	鹿児島県果樹試験場
ネパール	佐分利重里	農業開発計画	Ramesh Kumar ADHIKARI	95.09.04 ～95.12.08	農林水産省農業総合研究所
パキスタン	パキスタン植物遺伝資源保存研究所計画	データマネジメント	Abdul QAYYUM	95.11.15 ～95.12.16	農林水産省農業生物資源研究所
パキスタン	パキスタン植物遺伝資源保存研究所計画	植物遺伝資源	Muhammad ARIF	95.05.16 ～95.11.03	農林水産省農業生物資源研究所
パキスタン	パキスタン植物遺伝資源保存研究所計画	小麦の多様性の評価	Rashid ANWAR	96.01.21 ～96.04.28	農林水産省農業生物資源研究所
パキスタン	パキスタン植物遺伝資源保存研究所計画	ジーンバンク操作	Muhammad MUNIR	96.03.26 ～96.09.22	農林水産省農業生物資源研究所
パキスタン	坂井秀勝	造園計画・管理運営	Muhammad Saeed SHEIKH	96.01.16 ～96.02.17	建設省

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
パラグアイ	パラグアイ個別一般・民間技能者研修	農業教育運営管理	Pedro Gerardo GONZALEZ	95.10.22 ～95.11.02	筑波大学 農業学系 農林水産省農業研究センター
パラグアイ	パラグアイ食料増産援助	食糧増産援助	Luis Victoria MAIDANA DE VILLASBOA	96.02.21 ～96.03.07	食糧増産援助 カウンターパート合同研修
パラグアイ	パラグアイ農業総合試験場	土壌保全に関する土壌分析	Miguel Wataru ASADA Senno	96.03.25 ～96.06.26	農林水産省農業環境技術研究所
パラグアイ	ピラール南部地域農村開発計画	施工・排水管理	Ramon Alcides MEZA CHINOLIS	96.01.28 ～96.03.10	農林水産省農用地整備公団 筑波国際農業研修センター
パラグアイ	ピラール南部地域農村開発計画	施工・排水管理	Pablo Alberto NUNEZ FLECHA	96.01.28 ～96.03.10	農林水産省農用地整備公団 筑波国際農業研修センター
パラグアイ	ピラール南部地域農村開発計画	土壌改良手法	Daniel BORDON AMARILLA	96.02.18 ～96.03.17	農用地整備公団 農林水産省九州農業試験場 農林水産省国際農林水産業研究センター
パラグアイ	主要穀物生産強化計画	研究管理	Ricardo Ramon PEDRETTI GONZALEZ	95.09.17 ～95.09.29	農林水産省国際農林水産業研究センター 農林水産省農業研究センター 北海道立十勝農業試験場
パラグアイ	小規模農業強化計画	農業開発	Gladys Vidala TORRES BENITEZ	96.01.15 ～96.01.30	農林水産省 農用地整備公団
パラグアイ	小規模農業強化計画	農業開発	OGASAWARA KANZAWA Jorge Tukasa	96.01.15 ～96.01.30	農林水産省 農用地整備公団
パラグアイ	青果物流通改善計画	市場運営	Eduardo Javier LATERZA RIVAROLA	96.03.31 ～96.04.16	農林水産省
パラグアイ	青果物流通改善計画	流通行政全般	Aristides RAIDAN GOMEZ	95.07.27 ～95.08.12	農林水産省
パラグアイ	青果物流通改善計画	流通情報提供	Alberto BIANCIOTTO BOBADILA	96.02.19 ～96.03.21	農林水産省
パラグアイ	青果物流通改善計画	共同集出荷組織運営	Juan Yoji KANAZAWA SUSUKI	96.02.19 ～96.03.21	農林水産省
パラグアイ	片平秀雄	野菜栽培普及	Cesar Dario ZORATE GILL	96.02.26 ～96.09.20	筑波国際農業研修センター
ハンガリー	ハンガリー東欧研修計画	個別/バイオテクノロジー (ハンガリー)	Ervin BALAZS	96.01.15 ～96.01.27	農林水産省
バングラデシュ	バングラデシュ個別専門家	米生産	MD. Gous ALI	96.03.07 ～96.11.14	農林水産省

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
Bangladesh	Bangladesh 隊員巡回技術指導調査	農業協同組合	Mohammed Abdur RASHID	95.05.08 ~95.07.09	アジア農業協同組合振興機関
Bangladesh	Bangladesh 農業大学院計画フェーズ2	農業大学運営管理	Abdul HALIM	95.12.12 ~95.12.23	農林水産省 九州大学農学部
Bangladesh	Bangladesh 農業大学院フェーズ2 (IPSA)	作物学	Md. Giashuddin MIAH	95.10.03 ~96.03.31	九州大学農学部
Bangladesh	Bangladesh 農業大学院フェーズ2 (IPSA)	土壌化学	Uttam Kumar SAHA	95.10.03 ~96.03.31	岩手大学農学部
Bangladesh	Bangladesh 農業大学院フェーズ2 (IPSA)	作物生理学	Mohd. Abul Hossain MOLLA	95.10.03 ~96.03.31	九州大学農学部
Bangladesh	Bangladesh 農業大学院フェーズ2 (IPSA)	昆虫学	Md. Mukhter HOSSAIN	95.10.03 ~96.03.31	九州大学農学部
Bangladesh	農村開発 (研究協力) (JSRDE)	農村開発	MD. Akhtaruzzaman KHAN	96.03.28 ~96.06.26	農林水産省
Bangladesh	農村開発 (研究協力) (JSRDE)	地方行政	MD. Mazharul ISLAM	96.03.28 ~96.09.10	農林水産省
フィリピン	フィリピンボホール農業開発センター (アフターケア)	稲作技術	Maria Chona Evangelista MALEZA	96.02.12 ~96.11.18	筑波国際農業研修センター
フィリピン	フィリピンボホール農業開発センター (アフターケア)	野菜生産	Grace Len Calipayan DAGALA	96.02.26 ~96.09.20	筑波国際農業研修センター
フィリピン	フィリピン稲研究所計画	水稲育種	John Cahlan DE LEON	95.05.16 ~95.11.24	農業研究センター
フィリピン	フィリピン稲研究所計画	研究管理	Ronilo Alejandro BERONIO	95.05.24 ~95.06.13	農林水産省
フィリピン	フィリピン稲研究所計画	作物生理	Pompe Campoy Sta. CRUZ	95.06.01 ~95.10.01	農業環境技術研究所
フィリピン	フィリピン個別専門家 (穂刈達夫専門家)	水管理	Antonio G. CUNANAN	95.09.19 ~95.12.09	農林水産省農業・農村開発環境保全
フィリピン	フィリピン土壌研究開発センター計画フェーズ2	植物分析	Esperanza V. DACANAY	95.06.19 ~95.09.27	農業研究センター
フィリピン	フィリピン土壌研究開発センター計画フェーズ2	土壌物理	Carlos F. SERRANO	95.07.17 ~95.10.15	農林水産省農業環境技術研究所
フィリピン	フィリピン土壌研究開発センター計画フェーズ2	土壌化学	Beatriz C. MAGNO	95.07.17 ~95.10.15	農林水産省農業環境技術研究所
フィリピン	フィリピン土壌研究開発センター計画フェーズ2	研究組織・体制	Reynaldo G. PALIS	95.09.11 ~95.09.30	農林水産省
フィリピン	フィリピン土壌研究開発センター計画フェーズ2	土壌調査	Virgilio A. CASTANEDA	96.03.04 ~96.06.02	農林水産省農業環境技術研究所

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
フィリピン	フィリピン農村婦人地域特産物生産加工促進計画	農産物流通	Alberto B. MANINGDING	95.10.03 ～95.10.31	農村漁村女性・生活活動支援協会
フィリピン	フィリピン農村婦人地域特産物生産加工促進計画	農業普及	Benedicta A. DIMARANAN	95.08.15 ～95.11.15	農村漁村女性・生活活動支援協会
フィリピン	レガスビ西部地区灌漑開発計画	灌漑開発	ABEJON Josephine Enejosa	96.02.12 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
フィリピン	稲研究所	視聴覚教育	Karen Eloisa Tanzo BARROGA	95.08.22 ～95.09.23	沖縄国際センター(ビデオ制作コース)
フィリピン	稲研究所	農業機械	Ricardo F. ORGE	96.02.26 ～96.11.15	筑波国際農業研修センター
フィリピン	加藤成一	農業・農村開発環境保全	Naomi B. OROCIO	95.09.19 ～95.12.09	日本農業土木総合研究所
フィリピン	山田永果専門家カウンターパート	蚕育種	Adelfa Basaen VELASCO	95.07.18 ～95.10.31	農林水産省蚕糸昆虫農業技術研究所
フィリピン	農地改革支援地区・図面作成(ミニプロ)	地図作成技術(測地)	Castor F. SALACUP	95.08.28 ～95.10.06	日本工営(株)
フィリピン	農地改革支援地区・図面作成(ミニプロ)	農地改革制度	Jose Noel D. OLANO	95.09.18 ～95.09.27	日本工営(株)
フィリピン	畑地灌漑技術開発計画フェーズ2	灌漑事業運営管理	Leonardo Santiago GONZALES	95.07.23 ～95.08.13	農林水産省
フィリピン	畑地灌漑技術開発計画フェーズ2	野菜生産	Marcelo DIMAPILIS y Cruz	96.02.26 ～96.09.20	筑波国際農業研修センター
フィリピン	畑地灌漑技術開発計画フェーズ2	灌漑排水	Ludivina B. MENDOZA	96.02.12 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
フィリピン	畑地灌漑技術開発計画フェーズ2	情報分析管理	Chita R. CUTARAN	95.11.15 ～96.03.25	沖縄国際センター(情報処理要員養成(パソコンネットワークシステム設計者B)コース)
ブータン	ウォンディフォドラン県地下水開発計画	灌漑(表流水)	Kinga DORJI	95.05.30 ～95.07.21	農林水産省
ブータン	ウォンディフォドラン県地下水開発計画	灌漑(伏流水)	Kinzang WANGCHUK	96.01.30 ～96.03.03	農林水産省
ブラジル	アマゾン農業研究協力計画	組織培養	Oriel Filgueiras de LEMOS	95.08.22 ～95.11.21	農林水産省果樹試験場
ブラジル	アマゾン農業研究協力計画	農業研究運営管理	Luiz Octavio D. de Moura CARVALHO	95.08.17 ～95.09.07	農林水産省果樹試験場
ブラジル	アマゾン農業研究協力計画	生薬分析	Sergio de Mello ALVES	95.08.22 ～95.11.21	東京薬科大学文部省

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
ブラジル	アマゾン農業研究協力計画	アインザイム分析	Carlos da Silva MARTINS	95.08.22 ～95.10.27	農林水産省果樹試験場
ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	土壌（肥沃度）	Djalma Martinhao GOMES DE SOUSA	95.08.14 ～95.09.15	農林水産省農業環境技術研究所
ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	植物病理	Jose de Rubamar Nazareno dos ANJOS	95.12.10 ～95.12.23	農林水産省農業研究センター
ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	作付体系・緑肥による土壌改良技術	Arminda Moreira de CARVALHO	95.08.14 ～95.10.15	農林水産省北海道農業試験場
ブラジル	セラード農業環境保全研究計画	水質保全	Thomaz Adolpho REIN	95.08.14 ～95.10.15	農林水産省農業環境技術研究所
ペルー	ペルー個別一般・民間技能者研修	農村金融	Juan Antonio VEGA Fernandez	96.02.20 ～96.03.09	農林水産省
ペルー	食糧増産援助	食糧増産援助	Luz Angelica CORNEJO ROJAS	96.02.21 ～96.03.07	筑波国際農業研修センター （食糧増産援助カウンターパート合同研修）
ボリヴィア	食糧増産援助	食糧増産援助	Nery Humberto ORTEGA VISCARRA	96.02.21 ～96.03.07	筑波国際農業研修センター （食糧増産援助カウンターパート合同研修）
ホンデュラス	灌漑排水技術開発計画	視察	Lesbia Patricia Martines CANALES	96.01.16 ～96.01.30	筑波国際農業研修センター
ホンデュラス	灌漑排水技術開発計画	土壌物理	Dorty Mafalda BENDEZU	95.11.12 ～95.12.21	筑波国際農業研修センター
ホンデュラス	灌漑排水技術開発計画	土壌物理	Ana Leticia INESTROZA ALMENDAREZ	95.11.12 ～95.12.21	筑波国際農業研修センター
ホンデュラス	灌漑排水技術開発計画	水理実験	Luis Enrique OLMEDO	95.11.12 ～95.12.21	筑波国際農業研修センター
ホンデュラス	八幡 忠	灌漑排水	Elias Abdala NAZAR HANDAL	95.07.26 ～95.08.16	農林水産省 構造改善局
マラウイ	マラウイ個別専門家	農業協同組合	Ian Namoni KUMWENDA	95.05.10 ～95.07.09	アジア農業協同組合振興機関 （農業協同組合 I I コース）
ミャンマー	ミャンマー灌漑技術センター計画	灌漑水管理	U Soe MYINT	95.05.30 ～95.10.20	（財）日本農業土木総合研究所
ミャンマー	ミャンマー灌漑技術センター計画	土質試験データ分析	U Oo MYINT	95.07.18 ～95.10.20	農林水産省農業工学研修所

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
ミャンマー	ミャンマー灌漑技術センター計画	灌漑排水	Tin Maung MYINT	96.02.12 ～96.11.22	筑波国際農業研修センター
ミャンマー	灌漑技術センター計画	農業農村開発環境保全	Hla Oo NWE	95.09.19 ～95.12.09	(財)日本農業土木総合研究所
メキシコ	メキシコハリスコ州海岸地域農業総合開発計画	土地利用	Guillermo Isamu ARITA WATANABE	95.06.04 ～95.07.02	朝日航洋(株) 農用地整備公団 農林水産省近畿農政局
メキシコ	メキシコハリスコ州海岸地域農業総合開発計画	農業普及	Rafael Mendivil CARDOZA	95.06.04 ～95.07.02	農用地整備公団 近畿農政局
メキシコ	沙漠地域農業開発計画	野菜栽培	Alvaro GONZALEZ MICHEL	96.02.26 ～96.09.20	筑波国際農業研修センター
メキシコ	沙漠地域農業開発計画	果樹栽培	Isidro FLORES AMARILLAS	95.06.04 ～95.11.29	島根県農業試験場
メキシコ	沙漠地域農業開発計画	病虫害	Oscar FIOL NUNEZ	95.06.04 ～95.10.02	島根県農業試験場
メキシコ	沙漠地域農業開発計画	土壌・肥料学	Marno BENSON ROSAS	96.02.14 ～96.08.14	鳥取大学農学部
メキシコ	農業用水資源有効利用(研究協力)	処理水等の農業有効利用	Jose Alfredo Diaz MAGANA	95.10.08 ～95.11.17	農林水産省農業工学研究所
メキシコ	農業用水資源有効利用(研究協力)	農業水質	Jose COLLI MISSET	95.10.08 ～95.11.17	農林水産省農業工学研究所
モロッコ	ウエルガ川流域農業開発計画	農業ダム計画	EL GHOMARI Khalid	95.09.18 ～95.10.12	農林水産省
モンゴル	中部地域農牧業農村総合開発計画	灌漑技術	Tudev LUVSANBUD	95.10.30 ～95.11.23	農用地整備公団
モンゴル	中部地域農牧業農村総合開発計画	畜産開発	AGCHBAZAR Shiilegdamba	95.10.30 ～95.11.23	農用地整備公団
ラオス	サバナケート農業総合開発計画	灌漑施設及び管理	TONPHANITH Sounthala	95.11.13 ～95.12.10	農林水産省
ラオス	ポロベン高原農業総合開発計画	農業開発	Khammay VONGSATHIANE	95.07.18 ～95.08.23	日本工営(株)
ラオス	農業開発計画	農業農村開発計画行政	Khamdy AT SAYAVONG	96.03.05 ～96.03.23	農林水産省
ラオス	農業開発計画	農業農村開発計画行政	Kham Hot CHOUNLAMOUNTRY	96.03.05 ～96.03.23	農林水産省
ラオス	米田 博次	土地改良事業	Khamhoo PHANTHAVONG	95.08.21 ～95.09.16	農林水産省
ルーマニア	灌漑システム改善計画	カ/農業研究・畑地灌漑	TODOR Voicu	95.08.21 ～95.09.10	農林水産省
ルーマニア	灌漑システム改善計画	カ/農業研究・畑地灌漑	Gheorghe CRUTU	95.08.21 ～95.09.10	農林水産省



国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
大韓民国	環境保全型農業技術 (研究協力)	持続型農業技術	ROH, Kee-An	95.08.02 ～95.11.03	農林水産省中国農業試験場
大韓民国	環境保全型農業技術 (研究協力)	未利用資源有効利用	SO, Kyu-Ho	95.08.07 ～95.11.02	生物系特定産業技術研究推進 機構 農林水産省食品総合研究所
中国	河南省黄河沿岸稲麦研究 計画	作物保護(病理)	LU, Chuan- Tao	96.03.18 ～96.08.22	農林水産省九州農業試験場
中国	河南省黄河沿岸稲麦研究 計画	麦栽培	ZANG, Xiu- Wang	95.10.01 ～96.03.19	福岡県総合農業試験場
中国	河南省黄河沿岸稲麦研究 計画	研究管理・運営	LIN, Xi-Chang	95.11.15 ～95.12.06	農林水産省農業研究センター
中国	河南省黄河沿岸稲麦研究 計画	研究管理・運営	DUAN, Chuan-De	95.11.15 ～95.12.06	農林水産省農業研究センター
中国	灌漑排水技術開発研修セ ンター	灌漑排水	ZHANG, Han- Song	95.05.30 ～95.07.23	(財)日本農業土木総合研究所
中国	灌漑排水技術開発研修セ ンター	灌漑排水	GU, Xi-Hua	96.01.08 ～96.02.01	農林水産省
中国	灌漑排水技術開発研修セ ンター	灌漑技術	WANG, Liu- Yun	96.01.08 ～96.07.10	農林水産省
中国	中国灌漑排水技術開発研 修センター計画	水管理	LU, Wen-Hong	95.05.08 ～95.11.02	筑波国際農業センター
中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械整備修理技術	CHENG Xiao- Tong	96.03.04 ～96.06.29	筑波国際農業センター
中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械適正利用保守 管理	CUI, Yong-Jie	95.09.04 ～96.06.04	筑波国際農業センター
中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械行政・教育訓練	MANG, Ke- Jing	95.08.21 ～95.09.16	筑波国際農業研修センター
中国	農業機械修理技術研修計画	農業機械設計と計測	BAO Jie	96.02.26 ～96.11.15	筑波国際農業センター
中国	遼寧省大凌河白石ダム工 事実験	水理模型実験	SHI, Feng-Jun	96.03.28 ～96.04.25	農林水産省農業工学研究所
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投 入型野菜栽培 (UNETPSA)	GIWU Dorothy Princess Nozibele	95.10.01 ～95.12.19	筑波国際農業研修センターア ジア学院アジア農村指導者養 成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投 入型野菜栽培 (UNETPSA)	KGOPA Peter Moketla	95.10.01 ～95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投 入型野菜栽培 (UNETPSA)	KGOLE Makgabo Abram	95.10.01 ～95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校

国名	プロジェクト名	研修科目	研修員氏名	受入期間	研修先
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投入型野菜栽培 (UNETPSA)	LEPHOLETSE Thomas Radise	95.10.01 ~95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投入型野菜栽培 (UNETPSA)	KGOSIENG Lebogang Wilson	95.10.01 ~95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投入型野菜栽培 (UNETPSA)	NXUMALO Lisbeth Celiwe	95.10.01 ~95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投入型野菜栽培 (UNETPSA)	MATODZI Ndidinwangani Pedrick	95.10.01 ~95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発のための低投入型野菜栽培 (UNETPSA)	RAPHELA Ruth Ramogholo	95.10.01 ~95.12.19	筑波国際農業研修センター アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	NDALA Alfred Dube	95.11.06 ~95.12.15	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	NTONGA Somkazi Nomaphelo	95.11.06 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	NETSIKOVHELA Mpariseni Escort	95.11.06 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	MULLER Michelle	95.11.06 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	MARAIS Petrus Jacobus	95.11.06 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	GROBLER Adolf Pieter	95.11.06 ~95.12.14	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	NENGOVHELA Tshilidzi Norman	95.11.12 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農村開発 (UNETPSA)	POTGIETER Jan Christoffel	95.11.06 ~95.12.16	筑波国際農業研修センター
南アフリカ	国際機関タイプ2	農家生活水準向上女性指導者	MONAMA Joyce Chipsane	95.08.15 ~95.10.27	農村漁村女性・生活活動支援協会
南アフリカ	国際機関タイプ2	農業農村開発環境保全	JIYANE Bongekle	95.09.24 ~95.12.08	日本農業土木総合研究所



